

昭和四十八年十二月招集

第四回館山市議定会定例会会議録第三号

館山市議会

次

日	時	場	所	出席議員	欠席議員	出席説明員	出席事務局職員	議事日程	開議	議案第六十八号	議案第六十九号	議案第七十号	議案第七十一号	議案第七十二号	議案第七十三号	議案第七十四号	議案第七十五号	會議時間の延長	議案第七十六号ノ議案第八十号	散會	本日の會議に付した事件
.....
一	一	一	一	一	一	一	二	二	四	二	一	一	二	三	三	四	四	五	五

一、昭和四十八年十二月十日（月曜日）午前十時

一、館山市役所議場

一、出席議員 二十七名

一	番	吉田 勇治郎	二	番	林 豊
三	番	流山 源次郎	四	番	鈴木 稔
五	番	近藤 好雄	六	番	栗原 一雄
七	番	渡辺 昭夫	八	番	石井 武敏
九	番	辻田 実	〇	番	渡辺 軍治郎
一	三番	五十嵐 昇	一	四番	伊賀 多朗
一	五番	和田 一郎	一	六番	辻井 謹爾
一	八番	安西 益男	一	九番	島野 茂樹郎
二	〇番	君塚 喜三	二	一	番 鈴木 市蔵
二	二番	田村 源治郎	二	三	番 菊井 敏博
二	四番	西村 真次	二	五	番 安沢 徳順
二	六番	飯田 義男	二	七	番 望月 照正
二	八番	田中 禄郎	二	九	番 秋山 六三郎
三	〇番	遠山 ヨネ子			
一、欠席議員	二名				
一	一	番 山本 昇	一	二	番 藤田 益治

一、出席説明員
第一号に同じ

一、出席事務局職員
第一号に同じ

一、議事日程（第三号）

昭和四十八年十二月十日午前十時開議

日程第一 議案第六十八号

昭和四十八年十二月に支給する期末手当の特例に関する条例の制定について

日程第二 議案第六十九号

館山市職員給与条例の一部を改正する条例の制定について

日程第三 議案第七十号

館山市長、助役、収入役の給与及び旅費に関する条例の一部を改正する条例の制定について

日程第四 議案第七十一号

館山市教育長の諸給与及び勤務条件等に関する条例の一部を改正する条例の制定について

日程第五 議案第七十二号

非常勤の特別職の職員に係る報酬及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例の制定について

日程第六 議案第七十三号

千葉県自治センターの設置に関する協議について

日程第七 議案第七十四号

館山市児童遊園の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例の制定について

日程第八 議案第七十五号

昭和四十八年度館山市一般会計補正予算(第三号)

議案第七十六号

昭和四十八年度館山市国民健康保険特別会計補正予算(第一号)

議案第七十七号

昭和四十八年度館山市水道事業特別会計補正予算(第二号)

日程第九

議案第七十八号

昭和四十八年度館山市と畜場特別会計補正予算(第一号)

議案第七十九号

昭和四十八年度館山市休養施設特別会計補正予算(第一号)

議案第八十号

昭和四十八年度館山市ユースホステル特別会計補正予算(第一号)

附

議 午前十時三分開議

○議長(吉田勇治郎君)

本日の出席議員数二十四名、これより第四回市議会定例会第三日の会議を開会いたします。

本日の議事はお手もとに配付の日程表により行ないます。

議事について申し上げます。本日の議事案件の内容説明は先日の会議に終っておりまして、直ちに質疑より行ないます。

議 案 の 上 程

○議長(吉田勇治郎君)

日程第一、議案第六十八号昭和四十八年十二月に支給する期末手当の特例に関する条例の制定についてを議題といたします。

議案第六十八号

昭和四十八年十二月に支給する期末手当の特例に関する条例の制定について

質 疑 応 答

○一〇番(渡辺軍治郎君) 期末手当の条例が特例として出されておりますけれども、職員と特別職、特に市長、助役、収入役、非常勤の、というふうに給与では条例がそれぞれ分かれているのに

その期末手当を一つの特例として条例化した理由はどういふところにあるのか、これが第一点。

もう一つは、私はいつも給与のときには下給者と上給者では一定の率だと格差が大きいということでプラスアルファの主張はしてきたわけですが、今度は一万五千円のプラスアルファがついてるわけですが、一般職員に対しては当然だと思ひますが、特別職や非常勤特別職にプラス一万五千円ということでは私の考へている趣旨には反すると思ひんですが、こういう点はどういふふうに考へておられるか、聞きたいと思ひます。

○人事課長（小沢正治君） 御案内のように市の職員に対しまする給付は条例に基づくということになっておるわけでございます。

したがいまして現在規定条例をこえて給付する場合にはこのような措置が必要になってくるということだと思ひます。

それと第二点目の平均一律一万五千円については、確かにただいまの御意見のような考へ方もあろうかと存じます。しかし現在通常行なわれております給付は一般職、それから常勤三役に対するケースはほとんど同率支給というのが常態化されておるわけでございます。それによりまして他市との均衡上当局もそのように措置したということでございます。

○一〇番（渡辺軍治郎君） 第一点のほうは聞き取れなくてよくわからなかったわけですが、一応条例ではそれぞれ別になっているわけですよ。ですから別々に扱うのが当然だと思ひんですよ。考へ方としては一般職と非常勤特別職とはそれぞれ立場が違ひわけです。これを一括して出されると職員のほうについては問題がなくてもほかに問題があるということでは矛盾が出てくるわけですよ。

よ。ですから今度はこれでやむを得ないと思ひますが、これから先分けて出されるのかどうか。

それからプラス一万五千円についても、これは一般職員とすれば格差をなくすために当然だと思ひんですよ。しかし市長、助役収入役、それから議員が上と下との格差、そういうものはないんですよ。当然一万五千円は一般職員の給料の低い人たちのためにプラスアルファが出てきたと思ひんですよ。そういう点からみると矛盾がある。今後こういう問題をどういふふうに扱うのかお聞きしたいと思ひます。

○市長（本間 譲君） 渡辺議員さんの御質問も一応ごもっとものように思ひますけれども、やはり従来そういうことでございまして、別段異論もございせんし、各市においてもそういうことで行なっておりますので、今後におきましても現状のようにやってまいりたいと存じますので御了承願ひたいと思ひます。

○一〇番（渡辺軍治郎君） いままでやってきたから問題がなかった、それだから今後もやるんだというように一つの慣例に基づいてやるということであっても、矛盾があればなおしていくというのがあたりまえだと思ひんですよ。

採決に入ると困るわけです。一般職について問題がなくてもほかに問題があると採決に応じるか応じないか判断するわけですから、一方では賛成して一方では反対したという矛盾したものが出てくる、そういうものがあるから採決の場合には賛成か反対かはつきりさせるためにこういうものは条例の給与に基づいて別々に扱ったほうがいいと。

プラスアルファについても、上級と下級との差のない人たちに

問題があるんじゃないか、こういうことを言っているわけです。

市長さんの御答弁だといままでやってきて異論がなかったからそれで済ましたということですが、問題は大きいにあると思うんですよ。それで質問しているわけですから、そういう点をひとつはっきりさしていただきたいと思っています。

○市長（本間 謙）　さいぜん御答弁申し上げましたようなことで今後もうやってまいりたいと思います。

○議長（吉田勇治郎君）　他に御質疑ございませんか。――御質疑なしと認めます。

委員会付託の省略

○議長（吉田勇治郎君）　おはかりいたします。

本案を委員会付託省略いたしたいと思いますが、これに御異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（吉田勇治郎君）　御異議なしと認めます。よって委員会付託は省略することに決しました。

討　論

○議長（吉田勇治郎君）　討論に入ります。

○一〇番（渡辺軍治郎君）　ただいま質疑の中で私が問題とした、特別職と一般職員を同じように扱っているという点での問題点は質疑の中ではっきりさせたとおりであります。

この期末手当はいまの高物価の中で〇・六プラスするということは当然だと思っています。職員のそういう期末手当については私は

賛成いたします。

しかし特別職の市長、助役、収入役というような人たちは一般職員と比べれば高給者であるわけです。それに対して一般職員と同じように格差をなくすためのプラス一万五千円というものが同じように付け加えられるということではこれは賛成できません。同じく議員のプラス一万五千円についてもこれは非常勤でありまして一般職員とは違うわけであります。

そういう点についてこの特例案を全面的に認めるわけにはいきません。一般職員の期末手当は認めますが、その他の期末手当は認めることができませんので、これは賛成か反対か、そういうことで矛盾があるわけです。こういう点について再度この採決には加われないということで退席いたしたいと思っています。

○議長（吉田勇治郎君）　他に討論ございませんか。――討論なしと認めます。

採　決

○議長（吉田勇治郎君）　採決いたします。

本案を原案どおり可決するに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（吉田勇治郎君）　御異議なしと認めます。よって本案は原案どおり可決されました。

議　案　の　上　程

○議長（吉田勇治郎君）　日程第二、議案第六十九号館山市職員給与条例の一部を改正する条例の制定についてを議題といたします。

議案第六十九号 館山市職員給与条例の一部を改正する条例の

制定について

質 疑 応 答

〇九番（辻田 実君） 第八条二項の中の「同項第二号中『千円』を『千百円』に、」ということがありますが、これ以下のことに付いて関連して御質問いたしたいと思っています。

私が質問しますのは、同条二項二号のここに「自転車等」と書いてありますけれども、「等」というのはどの範囲を示すかということ。自動車等の関連について質問したいわけでございます。「等」ということは自動車のことを意味するかどうかということをお伺いしたいと思っています。

それから現在自動車、自転車の通勤者はどのくらいおられるかをお伺いしたいと思います。

したがって、この条文中にあるところの二キロ以上十キロ未満の千円を支給している人は何人おられるのか、交通費の千円を支給している人。それから十キロ以上の通勤者で千円以上支給している人は何人なのか。それから特別な事情を有する人千八百円というのがカッコの中に入っております。この千八百円の自転車等の通勤者によるところの支給者は何人なのか。この三点について現在払っているのが何人なのかということがまず第一点。

それから自動車通勤者と自転車通勤者を分類できたら分類していただきたいということが第二点であります。

第三点目には、二キロというと非常に近いんです。とにかく私のうちから駅まで四キロですから、その半分ということになります。

すから、二キロ以上のものについては特別手当のあれに該当するわけですから、それに対しての自動車の通勤ということは自然的に認めることになるのか。そうすると自動車の確保の問題もあるわけです。自動車を置く場所、この権利義務の問題をこの条例の適用でいえますると二キロ未満の自動車で通勤するものについては認めるわけですから、認める場合には通勤者の自動車置場の確保というものが権利義務の關係で発生してくるのではないかと思います。ことが考えられるわけです。そうやってきて現状と鑑みていくつかの問題があるように思いますけれども、そうしたものを私は特に改定にあたって理解したい、今後の対策をどうしたいかということをお伺いしてもって教えていただきたい、そのように思うわけです。

そういう観点で質問しますので、この状況をひとつ教えていただきたいと思います。

〇人事課長（小沢正治君） 該当者何名というごまかい資料が手もとにございませんので至急取り寄せたいと思います。

二キロ以上はそういうことでございます。通勤手当は自転車等、いわゆる通勤用具を自分で使用するもの、自転車、原動機付自転車、家用車、そういうものを全部含めてあるわけでございます。

そこでその距離の關係を認めるということによって、現実問題として自動車が非常にふえて市民のための駐車場が少くないということが事実ございました。そういう關係でやはりこれは認めるといっても、職員の通勤車両のため用地を確保するかどうかという關係についてはまた別途の微妙な問題がございます。現在のところでは一応役所の前の広場は住民のために極力あけておこうとい

り処置をとっております。したがって各人が自動車等で通勤するのはこれは自由でございますけれども、役所の前の、庁舎周辺の、いわゆる庁舎敷地内へ駐車はしないようにという申し合わせで現在行なわれておる次第でございます。

該当者何名については追って御報告したいと思ひます。

○九番(辻田 実君) この条項は前からあって、この点についてはまだちょっと煮つめなければならぬんじゃないかと感じたわけですけども、この二キロという基準はどういうあれできておるものか。当時の状況、この条例制定の段階でどうなのか、この点についてわかるかどうか。

私はこれはかなり無理があるんじゃないか。これは私もきのう若干論議したんですけども、小中学生、これは義務教育を受けなければならぬということでもって、二キロ以上の通学者は大分いるということなんです。それらに対して通学費というものの支給条例がない、こういうことがあってこれはかなり問題なんじゃないか、やはりこれらの問題について二キロ以上の通学者に対してのものと市の職員の通勤手当のものととはほぼ同一時点であるのが条例的な見解じゃないかと。こういう論議を学校の先生、その他若干の人たちと話してきただけですが、そういうものもここに出てくるんじゃないかと。市長さんいいですか、特に市長の決断のところですか。小中学校は二キロ以上通ったってこれは通学費というのはいないんです。市の職員だけが出るんです。つとめるといふ義務があるかもしれないけれども、高等学校は別にして小学校、中学校は二キロ以上でも学区が制定されればバスで通わなければならない人についても通学費は出てない。この問題

についてどのような考えか。

そして、この解釈上いくと、自動車で通うから十キロということだけでも、今度の改正によると千百円になるわけですけども、この点については市長はどのようにお考えになるのか。この点についての検討、さっき言いましたように二キロが設定されたのはどういふことなのか。現時点についてはいま言ったような矛盾がかなりある。

それで教育委員会に聞きますけれども、現在二キロ以上の通学者の小中学生というのはどのくらいいるか。概算でもわかりましたら説明願ひたいと思ひます。

○人事課長(小沢正治君) この通勤手当に限らず職員の諸手当につきましては、一応国家公務員の制度に準ずるということで制定されたわけでございます。二キロと定められた根拠がどういふ考え方であるかということについては正しく承知しておりません。

○議長(吉田勇治郎君) 暫時休憩いたします。

午前十時二十五分 休憩

午前十時三十分 再開

○議長(吉田勇治郎君) 休憩前に引き続き会議を開きます。御答弁願ひます。

○教育長(安田豊作君) 子供の通学費の問題についてお答えいたします。

小学生四キロ、中学生六キロ以上は扶助費の關係で支給されており、実際にバスで通っている子供は館山、あるいは神戸あたりは通っておりますけれども、必ずしも四キロ以上でない三キロ位の子供もいるようですが数はちょっと把握しておりませんが、

実際にはそういう子供もおりますが、扶助費は出ておりません。四キロ、六キロ以上です。

○九番（辻田 実君） この問題については、当初やはり私も理解するには通勤者に対して手当をよこせということでもって、そういう性格のものであったんじゃないか。最近ではこの問題はかなり内容は所期の問題と変わってきているんじゃないか。はじめは賃金が安いので補充分というものがかなりあったような気がするんです。率直に言って、若干誤解があるかも知りませんが、私も、ほとんどいま市の職員をはじめ通勤者は近い遠いにかかわらず乗用車を持っている人が多いんじゃないかと思えます。市の職員の中でも近くても車を持ってない職務上いちいちあれをやっていたんではいけないからということでも車を乗り回す、ですからある特定の係長とか課長補佐ぐらいになると車を持ってないよと非常に不便なんだよというように、これはしょうがないよというような形で、大体私は通勤しているからということではガソリンの消費量とかガソリンの消費量云々ということについてはほとんど額的にいけない状況があるんじゃないか。そういうところをかみ合わせていくと、特に自動車の場合には通勤代というような形で千円の補助とか千五百円の補助というような形のもので、何か本来の趣旨、そういうものから若干変わってくるんじゃないか。自動車の場合ですよ、ほかはいいですけれども。自動車のガソリン代という形で考えた場合にはそういう面がかなりぼけてくるんじゃないかというように感じるわけです。かといって十キロ以上、三芳、白浜のほうから通ってくる場合には相当距離がありますから、これらの人たちにはガソリン代が出ないからバ

スや汽車に乗れば出るからといって無理に乘せるということではかなり勤務の困難性があるというふうに考えられます。こちらへんについては、自動車の問題についてはどの程度改正にあたって討議されたのかどうなのか。この点についてお伺いしたいと思います。

私はこの条例そのものが「自転車等」ということでもって古めかしい、前近代的な感じがするわけですから、いま市役所でもって自転車に乗っている人が自動車の割合と比べてどっちが主なのか、どっちが従なのかといった場合に、自動車が主で自転車が従属的な関係にある現状のような気がするんですけれども、そういうところの点もあるんですが、それらは別として、いま言ったようなことについてどのような検討を加えたのか、ありましたらお答え願いたいと思います。

○人事課長（小沢正治君） 確かに時代の情勢変化に伴ってこれらの手当関係はまたそれに沿う改正があってもよいという考え方は確かに妥当だと思えます。

たとえば今般改正されました住居手当の関係についてもそのとおりであります。これは長い間住居手当を公務員に対して適用するかということは人事院が検討してきた問題であります。

そうした意味から交通機関、道路、そういった関係の発達、変化に伴って職員の実態が相当変化した段階ではやはりそれに即応した態勢が妥当だと考えられます。

今回の人事院勧告にあたりましては、通勤手当につきましては距離の制約、その他の関係についてはあまりみるべき改正がなく、金額の上のせ改正にとどまったという関係は、やはり官民格

差比較の關係で検討する關係上、まだ一般の企業等にもこのよう
な取り扱いが主体をなしているというふうに考えております。こ
れらがやはり変化してきました段階、特に他地域より館山市が特
別に変化しているとは考えられませんので、今回は一応人事院の
勧告に従ったということでございます。

〇九番（辻田 実君） その点については今後の問題として、いろ
いろあれが出てくるんじゃないかという感じがします。この点に
ついての質問事項についてはかなり並行線をたどってしまいうよう
な面がありますので打ち切りたいと思います。

もう一点。この中の七条の第三一項の住宅手当の問題でござい
ます。これについては私は三千円から四千円に引き上げるとい
うことについては基本的にはいいと思います。この上げる中におい
て最近政府並びに地方において勤労者住宅の建設促進といふこと
が非常に強調されているわけでございます。そして勤労者住宅等
建設したところに対するローンの問題ですね。こういう問題につ
いてもほゞ実質的には借り家というんですか、家賃と同じような
性格のものがあると思います。そういう問題について考えてはど
うか、無制限というわけにはいきませんけれども。

たとえば労働金庫のような場合などは住宅資金とか、そういう
勤労者住宅資金というのがあるわけです。これは非常に、そうじ
ゃなくて営業法だとかほかのものともまぎらわしい感じがする、ロ
ーンというのは非常にむずかしいと思いますけれども、住宅金融
公庫で借りて建てたとか、漁業近代化資金で建てたとか、市役所
の職員になりますから漁業というのは別にして、そういう住宅金
融公庫、労働金庫というところ、こういうところの場合には給与

所得者でなければならぬ、給与所得者が自分の住むうちでなけ
れば貸さないという勤労者住宅資金というのがあるんですけれど
も、そういう制度資金運用の場合にはこれにほゞ似通った状況が
あるんじゃないか。たとえば十五年以上二十年ぐらいのローンに
なってきましたその間は全く家賃を払っているのと同じような、
自分のうちであるような、借り家というような状況が非常に多く
なってきたいるんじゃないか。市の職員等についても労働金庫等
の貸し出しによって、ローンでもってかなり建てた人も知ってい
ますけれども、そういう人というのはどっちかというの家賃を払
って賃借家屋のような状況にあるんじゃないか。もちろん全部返
済するまで担保に入っていてほかの金融機関の貸し借りの対象に
は全くなならない。こういうものを見た場合に何かそれらもこれに
類似できるような感じがするわけですけれども、そういう問題を
制度をいじるというんですか、手直しをする中において討議され
たのかどうなのか、その点について。

また、そういう問題について今後どうやっていくか、意向があ
るのか。この七条の三で類似規定なり特例という形の中でもって
そうした国民金融公庫なり勤労者住宅ローン、そういうような利
用者に対しては特別適用というような形で検討される余地がある
のか、検討していこうという方向があるのかどうなのか、この点
についてお伺いしたいと思います。

〇人事課長（小沢正治君） 御意見ごもっともなようでございまし
て、当然職員の中で住居手当が設定された時点でそういう論議が
相当出ておったわけでございます。簡単に申し上げまして、自分
でなんにもしないで人のうちを借りて家賃を払っている者だけに

適用されるという不合理な面があるわけです。これは人事院が民官比較の中で最も問題としてきた問題であるわけです。しかしながら住居手当を支給するかしないかについても研究段階がすでに十年も二十年にもなろうとしているということで、なお問題は相応あるけれども、一応官民格差があまり開き過ぎていくのでこの際踏み切ろうということで、一応家賃を支払っている者だけに適用するというのが住居手当でございますので、もともと支給するにあたっては職員の生活状態に即して、なお相当問題はあるということは初めから言われておったわけでございます。

そこで当市の職員で家賃を払っている者だけにいつまでも適用していくか、あるいは持ち家の者に対してどうするかというような関係については相当討議、検討はされますけれども、一応今回はこのような改正をいたしまして、なおこれから研究課題として取り組んでいくことでございます。

〇一〇番（渡辺軍治郎君） 二点ばかり質問したいんですが。

三月の給与改訂のときは現場労働者、清掃労働者の特殊勤務手当だということで、これらの臨時職員、これは常勤的な臨時職員のベースアップにかわるものとして手当の増額をやったわけです。今度の給与改訂を見ますと、現場労働者、いわゆる清掃労働者というふうなああいう特殊なきかない仕事に従事している者が日額千七百円、依然としてそのままになっているわけです。そして特殊勤務手当を増額するというようなこともない、一般職員が人事院勧告に基づいてベースアップしているのに、最もきかないところで重労働にも等しいそういう仕事をしている人たちにベースアップがないというのは問題だと思ひんです。そういう点どうい

うふうに考えるのか。

それと関連して、大体いま職員は胸に名前を記入した名札をしているわけです。それが主事になると四角な名札、それ以下の者は丸い名札でやっているわけです。これはどうしてそういうふうな名札にまで差別をしているのか。そういう差別がこういう給与改訂の問題の中にも出てきていてはないかという疑いが持たれるので、二つの点についてお答え願いたいと思います。

〇人事課長（小沢正治君） 臨時職員の賃金につきましては、年度当初にその一年間の単価を一定いたしまして予算で決定をいただくという立てまえでございまして、これはいわゆる臨時職の賃金というのはそのままで二年も三年も勤続するという前提はないわけです。だから一カ月、二カ月、あるいは半年というような期間で短期に就業するところの賃金という考え方が主流をなすわけでございまして、年度当初に本年度はこの単価をお願いをするといい決定をするわけでございます。したがってまして年度の中で修正ということとは従前やってまいっておらないということでございます。

それから、勤勉手当はこれは全く同じルールで適用しているわけでございますが、名札を胸につけておるのが現場と本庁のほうと違うというのは、これは現場については一応考えておらなかったわけでございます。というところは、作業のじゃまになるだろう、あるいはそれがきっかけで思わぬけが等の原因になつてもしょうがないということで、現場の職員に対しては考えておりませんでした。ところが、やっぱりそれを付けたほうがいいというふうな部署がございまして、その分がたまたま予定されて購入していな

かったという、ところが前にここで丸が大き過ぎるということである。現在のようないくつかのスタイルにかえて、その丸の相対的な数があったわけでございます。それで結構だからということで現場へ持って行ったというのが実情でございます。この名札の形によって差別をするというようなことは考えておりませんでした。そういう事情でございます。

○一〇番（渡辺軍治郎君）　いまの臨時職員の給与の問題ですが、これは年度途中だからというようないくつかの回答ですが、一応人事院勧告に基づいて三月の給与改定をやったと思うんです。今回も人事院勧告に基づいて給与の改訂をすると思えば、全体として給与の改訂するのは当然だと思うんです。それが現場の労働者、特に臨時といっても職員と同じような常勤的なつとめをしているわけですから、三カ月、六カ月でやめる契約では、そういうことになっていきますが、これは更新してやるのが立てまえになっております。何らかの欠陥がなければ、ですから常勤的な職員とみていいはずですよ。そういうところには来年度の三月にすると、それだけ遅れるわけですよ。いま一般の職員が給料が上がっているのに自分たちは取り残されているというふうなそういうあれでは労働意欲をなくすおそれもあるわけです。こういう点どのように考えるのか。年度の途中だからというようなことでは私は納得できません。今回はこれにないけれども来年の三月そういう職員に対してどういうふうに考えるのか。私とすればいまの千七百というものは物価の上昇からみて安すぎると思うんです。二千円ぐらいにしてあたりまえだと思いませんか。そういう考えがあるのかどうか。もう一つ名札の問題ですが、案外上のほうの人たちは丸ののと

四角いのとたいした差がないように思われていますが、働いている労働者は差別されているという受け取り方をしているわけですね。職階制といいますが、これはいろいろの記章によって階級的に差別をするということは封建的なそういうものがかんまり強かったわけですね。ある部署ではそういうことが必要かもしれませんけれども、市のような同じような市民のための仕事をしている人を名札によって差別するということは屈辱的な考え方をやっぱり植えつけるんですよ。それが結局こういうように給料の差別、賃金の差別として出てくるんじゃないかという疑いを当然持つわけです。丸いなら全部丸いようなものにする、四角なら全部四角にするというふうに考えるのかどうか。いままでと同じような差別を、差別ととられるわけですから、そういうものを続けるのかどうか。重ねてお伺いします。

○人事課長（小沢正治君）　賃金につきましては新年度予算の中で大幅に引き上げる計画がございます。

それから名札の関係でございますが、私もほんとうに初耳でございます。現場で直接つけている職員がそのような考え方をいふとすればこれは全く望ましくないことでございますので、直ちに調査いたしまして、事実そのような実態があるとすれば直ちに廃止したいと思っております。

○一〇番（渡辺軍治郎君）　現場の職員がそういう受け取り方をしているば不都合なという話ですが、これはそういう上のはうが主事以上は四角な名札とされているわけでしょう。主事にならなければ名札がかわらないと、そういう階級的な差別があるわけですよ。こういうのはやめるべきだと思いませんか。その点は

どうなんでしょうか。

○助役（畠山 伝君） お答え申し上げます。そういうような形のかかることによりまして差別待遇というふうに考えられるということがございますとすれば、これはもともとそうした考え方はさらさらなかったわけでございますので、今後そういうものは正しいしていきたいと考えております。

○一〇番（渡辺軍治郎君） ただいまの答弁でそういうことはこれからかえていくということで、この点了解しました。

それから来々三月の給与改訂のときには清掃労働者と臨時職員そういうベースアップを考えているというようなことですが、現在の物価情勢から見ても相当大幅な値上げが必要だと思ふんです。

私は千七百円は現在とすれば二千円以上にはしてやるべきじゃないかという意見を持っていますが、以上来々三月で考えるところです。この点了解します。

○議長（吉田勇治郎君） 他に御質疑ございませんか。——御質疑なしと認めます。

委員会付託の省略

○議長（吉田勇治郎君） おはかりいたします。

本案について委員会付託を省略することに御異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（吉田勇治郎君） 御異議なしと認めます。よって委員会付託は省略することに決しました。

討

論

○議長（吉田勇治郎君） 討論に入ります。

○九番（辻田 実君） 先ほどの質疑の中でもって明らかにされておりますが、本案については一応賛成をいたします。

しかしながら、先ほど質問したところの二点、すなわち第一点につきましては通勤手当の問題について現状に即した検討、特に自動車通勤の問題、さらには義務教育の子供の問題、市の通勤手当については二キロ以上になっておりますけれども、小学生は四キロ、中学生は六キロ、こういう問題もあるので近い将来この義務教育の生徒の問題についても検討していただきたい。そしてこれらについてもある程度統一的な立場に立って条例の検討を加えていただきたいことをひとつ第一点として要望してきたいと思います。

第二点は先ほど答弁がありましたけれども、十年来勤労者の持ち家住宅に対するところの手当の問題が論議されておるといふことでございますので、ひとつ執行部におかれましてはこの点については早急に職組等の要望にこたえていただきたい。ちなみに私が関係しているところの労働金庫等については、先ほど申し上げたように住宅ローンによって、労金じゃなくてもほかの市中銀行で借りても三十坪未満の土地については、百坪以内の土地で三十坪以内の住宅でそして自分たちが住む、そして長期ローンに対しては住宅手当と同じ額の範囲内においてこれを支給していくというようなこともすでに行なわれております。私は労働金庫に関係しておりますけれども、どの民間会社等においてもこういうひとつの制限なり、豪華な五十坪、六十坪のうちのどちらかということはありませんけれども、市の場合に二十五坪なり二十坪未満

の職員も多くいるわけですから、長期のローンでやっているものについてはすでにかなりそういうところがありますので、住宅施策というのは国家施策でもある前に地方自治体の中心的な課題でありますので、そうした面をひとつ執行部において前向きに考えていたきたいということを要望いたしまして本案について賛成いたしたいと思います。

○議長（吉田勇治郎君） 他に討論ございませんか。― 討論なしと認めます。

採 決

○議長（吉田勇治郎君） おはかりいたします。

本案を原案どおり可決するに御異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（吉田勇治郎君） 御異議なしと認めます。よって本案は原案どおり可決されました。

議 案 の 上 程

○議長（吉田勇治郎君） 日程第三、議案第七十号館山市長、助役収入役の給与及び旅費に関する条例の一部を改正する条例の制定についてを議題といたします。

議案第七十号 館山市長、助役、収入役の給与及び旅費に関する条例の一部を改正する条例の制定について

質 疑 応 答

○一〇番（渡辺軍治郎君） この条例はあとで出てくる特別職と議

員の報酬の値上げと関係あるので聞きますが、十一月二十六日に報酬審議会が開かれているようですが、この審議委員には公共的な団体の代表が五人と学識経験者が五人というふうになっていますが、公共的団体の代表というのはどういう公共団体の代表が参加しているのか、学識経験者五人はどういう人なのか、そういう点についてお尋ねしたいと思います。

それから審議会の中でどういうふうに討議されて、どういう意見があったのか。要するに全員一致で賛成したのか、少数意見といますか、反対の意見もあったのか、そういうような点についてお聞きしたいと思います。

○人事課長（小沢正治君） 委員の構成でございますが、学識経験者としては安田誠之助さん、小沢恵太郎さん、鈴木四郎さん、小幡道太郎さん、望月輝作さんの五人でございます。

公共的団体等の代表としては、農業関係で農協の組合長さん、漁業関係では館山船形漁協の副組合長さん、婦人関係で婦人スポーツクラブの会長さん、それから商工関係で商工会議所の専務さん、それから一般労働者代表といたしまして地区労働者の長さんをお願いしております。

それから報酬等の審議会の状況でございますが、市長、助役、収入役の三名の給与額につきましては、全く意見はございませんで全会一致でございます。

○一〇番（渡辺軍治郎君） この審議会の構成について学識経験者という、大体いま名前を伺いましたが、市長さんに近い人たちが審議会の委員になられていると思うんですが、公共団体の代表は地区労働者の議長やそういう方も含まれていますが、こういう重要

な報酬審議会ですからできるだけ民主的な組織にして市民の意向が反映されるような構成にする必要があると思うんです。そのためには政党の代表のようなものの中に含まれていいんじゃないかというような考え方もあるんですが、これは市長さんの任命というような形ですからどうしても市長に近いというような構成が出てくる。そういう点では民主的とは言えないので、できるだけ市民がこういう審議会のそういうものが疑惑を持たれないような構成を十分配慮する必要があると思うんです。

この三役の報酬値上げについては全会一致で異論はなかったんですが、私はこれについては異論がありますので討論の中で述べますが、審議会の構成、あり方といいますが、そういうことでは問題があるようなので、将来民主的な構成にかえていく考えがあるのか、この点をお聞きしたいと思います。

○市長(本間 譲君) 民主的に任命してやっているわけですが、政党的代表を入れることが民主的というんですか。そういうことでなくても民主的じゃないでしょうか。あらゆる階層の代表でやっておるわけでございますので差しつかえないと思います。

しかしこれは報酬審議会にかけて、きめるのは皆さんできめてもらうんだからいけなければ修正されても一向に差しつかえないほんとうにきめるのはこちらでやって、あそこは意見をあらわしめ聞いてそれを皆さんにはかるということでございますので、意見があればここで反対でも賛成でも皆さんの考えでけっこうです。私は修正されても何されても皆さんの御審議にまっとうでございますので、よろしくお願いいたします。

○議長(吉田勇治郎君) 他に御質疑ございませんか。――御質疑なしと認めます。

委員会付託の省略

○議長(吉田勇治郎君) 本案については委員会付託を省略したいと思いますが、これに御異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○議長(吉田勇治郎君) 御異議なしと認めます。よって委員会付託は省略することに決しました。

討 論

○議長(吉田勇治郎君) 討論を行ないます。

○一〇番(渡辺軍治郎君) ただいま審議会のことについては、市長さんが民主的にやられているんで変える考えはないように伺いましたけれども、公共的団体の代表ということでは農民、漁民、婦人の代表、商工会議所、地区労というふうにかなり民主的な組織が加わっておりますが、学識経験者のほうは少し問題があるんじゃないかというようなことで、できるだけ市民の声が反映されるような人たちを学識経験者の中に入れて權威を持たせるべきだと考えます。

それからこの値上げの問題ですが、これは一般の職員が大体一六%前後の値上げになっているわけです。しかしこれで見ますと大体二六%ぐらいの値上げになるという中で一般の職員と比べて率が非常に高い、しかもこの人たちは高給者で一般職員とは違うわけですから、そういう点では非常に大幅過ぎるんじゃない

かという点でこの条例には反対いたします。

以上であります。

○議長（吉田勇治郎君） 他に討論ございませんか。――討論なしと認めます。討論を打ち切ります。

採 決

○議長（吉田勇治郎君） これより採決いたします。本案に対する採決は起立により行ないます。

本案を原案どおり可決するに賛成の諸君の起立を求めます。

（賛成者起立）

○議長（吉田勇治郎君） 起立多数。よって本案は原案どおり可決されました。

議 案 の 上 程

○議長（吉田勇治郎君） 日程第四、議案第七十一号館山市教育長の諸給与及び勤務条件等に関する条例の一部を改正する条例の制定についてを議題といたします。

議案第七十一号 館山市教育長の諸給与及び勤務条件等に関する条例の一部を改正する条例の制定について

○議長（吉田勇治郎君） 御質疑願います。御質疑ございませんか。――御質疑なしと認めます。

委員会付託の省略

○議長（吉田勇治郎君） おはかりいたします。

本案を委員会付託を省略することに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（吉田勇治郎君） 御異議なしと認めます。よって委員会付託は省略することに決しました。

討 論

○議長（吉田勇治郎君） 討論に入ります。

○一〇番（渡辺軍治郎君） この条例には反対するものでありますが、これは前の七十号議案と同じような理由であります。

特別職で二六%の引き上げになるわけですが、一般職員と比べて一〇%多いということで、私は一般職員の方にすべきだと考えますのでこの条例案には反対いたします。

○議長（吉田勇治郎君） 他に討論ございませんか。――討論なしと認めます。よって討論を終ります。

採 決

○議長（吉田勇治郎君） おはかりいたします。本案に対する採決は起立により行ないます。

本案に賛成の諸君の起立を求めます。

（賛成者起立）

○議長（吉田勇治郎君） 起立多数。よって本案は原案どおり可決されました。

議 案 の 上 程

○議長（吉田勇治郎君） 日程第五、議案第七十二号非常勤の特別職の職員に係る報酬及び費用弁償に関する条例の一部を改正する

条例の制定についてを議題といたします。

議案第七十二号

非常勤の特別職の職員に係る報酬及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例の制定について

質 疑 応 答

○一〇番（渡辺軍治郎君） 先ほど審議会の審議経過で三役については全員賛成ということで、ほかの問題については報告がありませんでしたけれども、議員の報酬について審議会の経過はどうだったのか。

三月の議会で議員の報酬は一万円上がっているわけです。同じ年度に三万円というこれは大幅な値上げになりますし、館山の予算規模からみてもかなり多い値上げではないかと思うんですが、この辺はどういうふうに考えておられるかお聞きしたいと思います。

○人事課長（小沢正治君） 報酬等審議会の審議の過程では、議員の報酬引き上げにつきましては少数意見として幅が大き過ぎるという意見がございました。しかし結論的には審議会として諮問案どおり妥当と認めるといふ答申で出しましたというところで一致したわけでございます。

それから上げ幅の考え方でございますけれども、一応四十七年度で一万円上げて七万円という議員報酬になったわけでございますけれども、現時点でいきますと七万円というのは県下二十六市の中で館山だけになっているわけです。それとこのような物価上昇過程の中で昭和四十九年になりますとおそらく十万円がほとん

ど最低線になっちゃうんじゃないかというような情勢もございまして、そういう県下のいろいろな均衡の関係から一応四十九年の四月一日からの適用でございますので、新年度の予算編成の基礎数値の確定関係と関連して一応審議会へかけたわけでございまして、最近の各市の状況を見ますとほとんどが適及適用で改定を行なっているところも出ておるようでございますが、当市の場合来年の四月一日から適用する額として諮問いたしましたわけでございまして、審議会といたしましても結論的に妥当と認めるといふ答申を出すということで一致したわけでございます。

○一〇番（渡辺軍治郎君） 答弁ではほかの市と比べれば七万円というのは低いじゃないかということですが、しかし十万円というのは同じ予算規模のところでは出てないわけです。物価上昇を考えて四十九年度を見越すということで、どっちかというと先動的な、先取りといえますか、物価が上がるのを見越して議員の報酬を引き上げるといふようなことはちょっと問題だと思ふんです。

これは市民から見ただけの場合、物価が上がってよそでも大体同じようなそういう状況だというようなかで引き上げるのと、四十九年度の物価上昇を見込んで引き上げるのでは相当ここに問題がある。

しかもパーセントで言えば四四％の大幅な値上げになりますから、館山の予算規模から見ても三役、議員というところのベアアップ全部計算して一カ年間にすると大体二千万ぐらいの予算支出を伴うわけですから、館山市の財政状態から見てもちょっと大き過ぎるんじゃないかというふうな感じもするわけです。

もう一点、常勤特別職のほうは一月一日から値上げして、議員は四月一日というふうに差をつけた理由、そういう点も付け加え

てお伺いしたいと思います。

○人事課長（小沢正治君） 三役については、引き上げの根拠が一般職の最高給が特に収入役、教育長をはるかに追い越してしまつたという関係から一月一日施行というふうに考えたわけでございます。

それから議員関係につきましては、従前年度で一応決定したものを中途で変更しないように配慮しながら決定してまいつた関係で、従前の慣行に従つたということでございます。

○助役（畠山 伝君） ただいま人事課長から申し上げましたように一般職員と収入役の額が非常に接近し、かつ多くなりそうなのもあつたわけでございます。というようなことから一月に上げたいということでお願いしたわけでございます。議員さんにつきましては大変御尽力いただいておりますのに、三月の差がありますが、今まことにつきましては、たいへん申しわけございませんが、今までそうしたことでまいりましたので、その程度でお願いいたしたいと思ひます。

○一〇番（渡辺軍治郎君） 何かよくわからないんですが、（笑声）苦しい答弁だったんですが、一般職の場合は人事院勧告がありましてこれに基づいて上げるのは当然ですが、特別職の場合は一般職と違うわけです。従来のきめ方をみますと、これはいまでもさかのぼってきめているところもないわけではないんですが、ところが最近ではきまったら、可決したらそこから上げるといのが、大体そういう方向でできたと思うんですよ。今度に限って特別職は一月一日から議員のほうは四月一日からというように差をつけたのはちょっとわからないんですよ。当然議員が、四月一日からと

いうことなら特別職も四月一日から実施するのがあたりまえだと思ふんですよ。そうでないと市民のほうだって三役は一月一日で議員は四月一日だとかかしいという考えを持つのは常識的なんです。上げるならば特別職全部が四月一日、予算を考えた場合四月一日に遅らせるということは予算の切りかえですからそこにもつていくのが当然だと思ふんですよ、特に大幅なアップですから。一月ということになれば補正予算にも組まなくちゃいけませんよ。一方ではそういう補正予算まで組んでサービスして、（笑声）おかしいかもしれないけれども議員のほうは四月にもつていくというようなことで、きめ方そのものに納得できない点があるんです。額の多い少ないは別にして、月を別にきめるといふのはどうも根拠がはつきりしないわけです。その点納得のいくように説明してくれませんか。

○人事課長（小沢正治君） ただいまの問題ですが、先ほど申し上げましたように常勤三役につきましては一般職の最高給が収入役を上回ってきたという関係から長く放置するものもぐあいが悪いんじゃないかということで一月一日適用というふうに考えたわけでございます。

議員の場合は、比較関係が県下の情勢という関係から、一応新年度から改定というふうに考えたわけでございます。

○一〇番（渡辺軍治郎君） さっきから答弁を聞いてみると、市長は変える場合は従来からやってきたからということをかなり主張するんですよ。従来からやってきて変える必要はないといひますか、給与の改訂でも従来はずっと一緒だったわけですよ。こういう差をつけたことはないわけですよ。上級職と収入役、そういう

ところの給料が大体同線にきたというようにことを理由にしていますが、実施の場合はそれと違うわけです。特別職が来年度から上がるということなら四月から全部上げる、当然市の財政状態からみたら裕福な財政状態じゃないでしょう。特別職だけ一月一日からと差をつけて上げるということは問題があると思うんです。

人事課長の答弁では給料のバランスの関係で少しでも早く上げるというような考えだと思いますが、ものきめというのは、大幅な値上げですから、これは四月一日からということなら一様に四月一日からやるというふうに考えますよ。特別に一月一日からというような考え方というのはちょっと違うと思いますが、これ以上繰り返してもしょうがないので打ち切ります。

○九番(辻田 実君) 一点お伺いしますけれども、市長さんと人事課長両方とも御答弁願いたいと思うわけですけれども、前からそうですけれども、どうも市と私との間には議員の報酬についての考え方の違いというものが相当あるように思います。これは私はそれでいいと思いますけれども。そこで一つ、市はこの議員報酬についての根拠、基準、これを持っておるのかおらないのか。それだけでけっこうです。

もう一つは、それに関連しまして、先般市の職員組合の機関紙等を見ますと議員報酬云々という形の中でかなり批判的なものが出ていました、報酬に対して議員の給料との差について。これについては私は職員組合の機関紙についてどうこうというわけじゃありませんけれども、市当局の交渉の過程について議員の歳費に対するところの認識、根拠というものが十分把握されておらないんじゃないか。そういうものがあのような形で、どうい

うところでどうなったかわからないけれども、職員組合に対してかなり誤解的なものを与えているんじゃないかということで、私は議員の一人として憤慨にたえません。このことは一般市民に対してもそういうものが非常にあります。報酬審議会の中でもそういう論議がされておるようでございます。何を基準として、どうして議員の給料はきめなければならぬのか、したがって議員の給料はこのぐらいでなければならぬんじゃないかと、このようなものは全くない。国会議員の場合には公務員の上にある。これは憲法でもってきまっていますからいいとして、地方自治体、ほかの大きいところは別として、館山市については市長なり給与担当者に付いてそういうものは持っておるのかどうか。この点についてお伺いしたいと思います。

○市長(本間 謙君) ずいぶんむずかしい話でなかなか答弁が容易でないと思いますが。これは議員の方々は調査活動費というところで私は考えたらどうかと、あるいはまた最近においては議員を専門にやっておられる方もありますし、その方々は生活費とお考えになるかもしれませんが、私は市会議員としての調査、研究、活動費として考えたほうがいいんじゃないかというように考えておるわけでございます。

○九番(辻田 実君) 私はじめて明快に調査活動費ということではないわけですけれども、調査活動費ということでもって考えておるようでございますから、そういう点ならそういう点でひとつ十分市長のほうとあれしましてこの点については了承したいと思えます。

そういう点からいたしますと、議員の調査活動費ということの

実態調査、その辺からいって高いか低いという点についてどう考えておるのか。私は議員の調査費、活動費というような範疇でいきますと若干この額そのものが高い、低いとは別として相当の食い違いがあるように見受けられますけれども、その点について議員の活動実態、調査活動の範囲、そういうものについて一人でも二人でもいいから抽出的に調査されてこういうものになったのかどうか。市長さんの答弁というのは最近ごろが合えばいいという答弁が多くなっているわけです。確固たる信念を持って、責任を持ってやっていたかかないと困るわけで、簡単に調査活動費だというようなことを言われちゃうと、実際に調査もしもしないで出しているということは心外であるし、議員の一人でも二人でもいいから議員の活動の実態と、調査活動について調べたことがあるのかどうか。その点についてお伺いしたいと思います。

○市長（本間 譲君） それは私に聞くということはどうですか。皆さんがそれぞれやっていらっしゃるから、それでわかりじゃないですか。私はそれに命令する権限もないし、市会議員は市会議員としての責務があるわけです。それは皆さんがわかりでしょう。

○九番（辻田 実君） そういう答弁をされますとあれですけども、（笑聲）市の提案者として、予算執行者としての答弁としては非常に不適確だと思ふんです。そういう答弁をしているから市の職員に対しても市民に対しても議員の歳費の問題について混乱理解を得られないということがあるわけでございます。この点についてはこれ以上あれしませんけれども、その点調査活動費ということで市長は信念を持って何人か調査されたいじゃないか

と、アンケートを取ればこれに応じます。大体調査をしている、活動しているからこのくらい出しますというような基準が出てきてしかるべきじゃないかと、私はその議員がきめるかどうかということより、市長さんはいまおっしゃる答弁に対して調査活動費として出しているということでございますから、じゃ調査活動費は実際に議員がどうやっているか調べもしないでそういうことをやるかすれば、私は執行者として非常に無責任だということを言っているわけでございます。その点要望いたしまして終りたいと思います。

○二二番（田村源治郎君） 私はいま辻田議員のを聞いていて、議員報酬基準というのを聞いてみると、いま人口に比例して、そして予算規模に比例して、地域その他の活動性に基準するのが等しいんじゃないかと、館山市じゃ議員が他市より悪い、予算規模は拡大すればそこに議員の活動性なり研究性なり、人口が多くなればそれに伴うものも調査費、あるいはそこに議員の生活も加わってくるんだということならば、市長は議員報酬審議会にかけて予算規模におけるものの報酬はどれだけが正しくてどれだけがいいという結論もつかめないということはおそらくないだろうと思ふんです。規模は小さくば規模が小さいだけの議員の報酬が積算できる。人口は少ない、予算規模も小さい、館山市はある程度伸びているんだ。伸びればわれわれ議員に対しては研究活動、あるいは調査、金額の大きい建物もできる、いろいろな施設もできるということに対していくと、そういう一点をもう少し詳しく市長の考えをただす。

もう一点は議員のみ四月一日から施行するということなら三月の予

算にかけて、四月一日から執行するといひま出さない金額を、四月一日から出すんだということをこの暮れにやる必要性があるかないか。何ゆえにいま出すのか。三月の予算規模を、財政状態をみて、現在の経済状態を調べて三月の予算会議のときにこの条例の一部を改正するのが正當じゃないだろうか。議員は確かに予算のときは審議に加わって、そして審議した予算であるから、いまもって上げた四月のことをいま考える必要はないと思う。今度出す予算に対して市長は伸びがあるから、少なくなるとか、その財政を判断して二月の条例に、改正する予算のときに改正を繰り込むのが当然だと思います。この点についてお伺いいたします。

○議長（吉田勇治郎君） 暫時休憩いたします。

午前十一時三十分 休憩

午前十一時四十五分 再開

○議長（吉田勇治郎君） 休憩前に引き続き会議を開きます。市長の答弁を求めます。

○市長（本間 謙君） 田村議員さんに対してお答えをいたしたいと存じます。

報酬決定にあたりましては田村さんのおっしゃる通りに予算規模とか、あるいは人口の関係、あるいは他町村の関係、また議員活動についても考えてやったわけでございますが、議員の活動についてはなかなかこのようにはいっておらないと思いますけれども、年度で今回はひとつ御了承をいただきたいと存じます。もう一つ、三役のほうは一月から支給になるし、議員の方々は四月からということで矛盾があるような御質問でございますが、その点私もほんとうに申しわけなく考えておりますが、今回だけ

はどうぞこれを御了承願いたいと思います。今後におきましては十分注意してまいりたいと思います。

○議長（吉田勇治郎君） 他に御質疑ございませんか。御質疑なしと認めます。質疑を終ります。

委員会付託の省略

○議長（吉田勇治郎君） おはかりいたします。

本案について委員会付託を省略いたしたいと思ひます。これに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（吉田勇治郎君） 御異議なしと認めます。よって委員会付託は省略されました。

討論

○議長（吉田勇治郎君） 討論に入ります。

○一〇番（渡辺軍治郎君） 質疑の中で明らかにしましたように議員の報酬を四十九年度の物価上昇を見込んできめたというようになことですが、しかも四十九年度は三月に議会があるわけですから、その時点でも遅くはないと思うんです。これはやはり予算規模との関係もありますから、いまここでもってきめても結局実施するのは来年の四月ですから、いま何も特別ここできめなくても来年になれば見通しもはっきりしてくるというようなこともあると思うんです。

それからもう一つは、審議会の少数意見として上げ幅がやはり大きいということは市民の意向を反映していると思うんですよ。

一般の職員が一六%、非常勤の特別職が二六%、議員が四四%と
こういう比率を見ますと、少数意見にも出たように上げ幅が大き
いんじゃないか。この上げ幅が大きいということは結局先ほどの
答弁にもありましたように四十九年度の物価上昇を見込んだとい
うふうに言っておりますが、もしそうだとするならば三月議会で
きめても遅くはないわけです。

そういうことと、もう一つは常勤、非常勤特別職合わせて報酬
の引き上げというのは年間を通じて計算しますと二千万円になる
わけです。しかし通告質問の中で明らかにしましたが水害にしま
しても排水路の整備が遅れているために毎年同じような被害を繰
り返しているというようなこともあるわけです。或いは商工観光
費にしても、産業費にしても非常にみるべきものがないというよ
うなことで、もっとこういうところに予算をさかなければいけな
いんじゃないかというような問題もあります。また道路の舗装や
ブルの問題にしても、一戸当たり九千円というようなブル
の寄付を割り当ててとっているわけです。そういうような負担
を市民にある程度強制するというようなことを依然としてやられ
ておりますし、そういうような中で二千万の予算が報酬の引き上
げについて使われるということは問題があると思うんです。市民
感情から言えば市が当然やるべきことを遅れておって、それなの
に議員の歳費を大幅に上げるといことは市民感情からみて非常
に問題がある。

もう一つは、大体十萬円の議員報酬というのは君津あたりが百
億の予算規模でそれくらいの報酬なんです。館山は三十億くらい
の規模からみてもかなり大帳な値上げであるということでは私にこ

の報酬の引き上げについては、若干は物価上昇、その辺からみて
上げなければならぬと思いますが、かなり率が大帳であるし、
市民の要求にこたえるという施策もやられていないし、予算規模
からみて非常に大きいというようなことで、この報酬引き上げの
条例案には反対であります。以上。

○一八番(安西益男君) 希望的な意見としましては、三月でやる
のがいいんじゃないかということが一つ。

一挙に大帳値上げということについては、先ほど市長さんの説
明を願ったわけでございますが、物価の上昇、諸般の事情、そう
いった点からある程度の報酬額の値上げということはやむを得な
いと思えますけれども、希望的な意見としましては中間的な額で
けどうかということ、期間がございますので御検討願いたい、
以上。

○議長(吉田勇治郎君) 他に討論ございませんか。― 討論なし
と認めます。討論を打ち切ります。

採 決

○議長(吉田勇治郎君) これより採決をいたします。採決は起立
により行ないます。

本案を原案どおり可決するに賛成の諸君の起立を求めます。

(賛成者起立)

○議長(吉田勇治郎君) 起立多数。よって本案は原案どおり可決
されました。

午前の会議はこれにて休憩とし、午後一時再開といたします。

午前十一時五十三分 休 憩

午後三時 再開

○議長（吉田勇治郎君） 午後の出席議員数二十五名、休憩前に引き続き会議を開きます。

議 程 の 上 程

○議長（吉田勇治郎君） 日程第六、議案第七十三号千葉県自治センターの設置に関する協議についてを議題といたします。

議案第七十三号 千葉県自治センターの設置に関する協議について

質 疑 応 答

○議長（吉田勇治郎君） 御質疑願います。

○一〇番（渡辺軍治郎君） この千葉県自治センターをつくるという計画は、県では職員の自治研修ということで県のほうでもって上のほうからこういうことがつくられてくるということに出てきたと思うんですが、自治研修というのはやはり職員の問題ですから、そういう職員の必要性がどのくらい県内で問題になってこういうものが出てきたのか。問題はやはり自治研修ということになれば必要に応じて自主的に研修がやられる。そういうことを援助するような形でやられるのが民主的な行き方だと思ふんですが、こういうものをつくって自治研究をするというふうな一つの型にはまったようなやり方についてはどうかと思ふんです。こういう点の一つ。

そういう立場からみて議会の問題がここにあります。議会の構成が市長七人、町村長三人ということになっておりますが、職

員の自治研修ならば職員の意向が当然この議会で反映されるように、職員の中から選ばれてこそほんとうに職員の自治研修に対する意見や何かが反映されて、民主的な運営というものがやられなければならないと思ふんです。ところが二章の議会では市長と町村長が議員ということになって、職員研修とは言いながらこれは何か行政的な指導というにおいが非常に強いんですが、そういう点御回答願いたいと思います。

○人事課長（小沢正治君） 先般の説明でそのような印象を与えるような、それは考えておりませんが、各市町村の実情によりまして現在の職員の研修関係で不便があるし、機会と経費の関係で非常に苦労しておるという実情から、市町会と町村会でこれらをもう少し積極的に、わりあい安い経費でより多くの職員に勉強をする場所、機会等を与えるような施策面を打ち出したために県で相当の財政援助をしてほしいということで市長会、町村会から県へ申し入れを行なったということでございます。それに基づきまして確かに必要性があるということを認めまして、県が積極的に企画に対して財政的な援助を行なうということでございます。議会の定数十人で市町村長が議員となるという関係は公務員法上職員の研修は首長の責任において行なわれなければならないという関係から、これは市町村長の権限の専属という関係からそういうような構成を考へる。しかしながら具体的に研修のあり方と内容等についての実際的な関係については市町村長といえどもそこまで詳しい企画やら講師の選定やらという関係はよくわからないだろうから、それは専門的に市町村の職員によるこの自治センターの運営委員会を構成して、具体的な自主運営をはかってい

くという計画でございます。

〇一〇番（渡辺軍治郎君） 市町村長が職員を監督するという立場にあることはわかります。こういうものをつくる場合に職員の意向がどのように反映したのか。たとえば民間では自治労というものがあって自治研修を毎年やっております。民主的な運営でそれぞれ職員の実際活動の中からレポートを持ちよって、そこでよりよい自治ということで自主的にやっておりますが、何かこれを見ると上のほうから、失礼なことばかもしれませんが、ある程度官僚統制的な方向が強いんではないかという心配があるわけです。そういう点から見ても職員の自治研究に対する熱の盛り上がりがあるというものをつくってほしいということでも出されたのか。ただいまの説明だと何かその辺がちょっとぼやけているような感じですので。

したがって議会の構成でも市町村長というふうになって、はたして自治研修というものが職員の意向が反映されるのかどうか。そういう点疑問に思ったのでお尋ねしているわけですが。

〇人事課長（小沢正治君） ただいま申し上げましたように、実際にスタートしまして運営していく段階でそういうような御懸念がやはり職員の間にも多少ないでもないというようなことから、当初の協議の段階で具体的に運営していくための運営委員会を一般職員で構成しまして、全く独自の自主的な運営が行なえるようにという配慮がなされているわけでございます。

〇一〇番（渡辺軍治郎君） もう一点、私が聞いているのは自治研修の必要性ですよ。そういうものが館山市の職員の中から盛り上がって、それぞれ研究していると思えますよ、そういう中からこ

ういう一つの組織的なものがほしいんだというような盛り上がりがあるが館山市の職員の中からあったのかどうかということを聞いてみるわけですよ。

〇人事課長（小沢正治君） これは各市町村によって、具体的に言いますと、困難をしているという研修内容については全部共通ではないわけです。事情によって、市町村の実情によっていろいろあるわけです。それを総括的にこういう施設が必要であるという要望から、それを受けた市町村長が知事に対して要望したというふうに考えております。

たとえばこの近辺で申し上げますと、土木技術というものが非常に市町村段階では採用しにくいし、そういう関係でスムーズに職員の適格な採用ができないという事情もあるわけです。そういう問題があった場合に職員を長期的に研修を行なって、一応市町村の職場で通用し得る技術を与えていくというような計画もあるわけでございます。

一般職につきましては、採用しました時点での初任者、中級、中堅、幹部職員、あるいは管理職というふうな段階的にそれぞれこれからの近代行政を指導していく形の中で、職に適した研修を逐次計画的に実施していくというようなことが基本になりますけれども、特に市町村ごとに非常に困難をしているという技術をこの施設で重点的に順次必要に応じて行なえるような処置をとりたいというようなことも含まれておりまして、一応その研修関係の組織や機構や経費やら機会の得られ方というのが、これをつくることによって非常にスムーズに経費も安く、より多くの機会が得られるということで、それぞれ市町村が一致してそういう方向を

打ち出したというふうに理解しております。

〇一〇番（渡辺軍治郎君） いま聞いているのは、館山市の職員がいままで自治研修をやっていると思うんです。そういう中からこういう組織を持たないと不便だということなのか。これは一般論でスムーズに何かがいくようにこういうものを持ったほうがいいただそれだけの受け取り方のように受け取れるんですよ。

いままで自治研修は全然やってないのかというと、やっていると思うんです。ここでは特に土木技術者の問題を取り上げていますが、確かに土木関係の技術者が不足しているということでは人材がないわけです。外部から用いることができないから内部でつくろう、もしそういう観点に立つなら特別に土木技術者を養成する特別の機関を持たなかったら不徹底に終ると思うんですよ。

一般研修という形の中でやられるのと、技術者を養成するという立場で派遣して、一年なり期間があると思うんですが、そこで立派な技術者になるような学習、訓練を受けるといふようなことと、一般的にこういうものをつくったらそういうものがうまくいくんだということではちょっと問題があると思うんです。だからそういう点でいままでやっている自治研修を土台にして、そういう事実の中からどうしてもこういうものが必要なんだという下からの意見が出てきていままやっているようにには思えないんです。へたをするとこれは官僚統制的なワクにはめられる危険性が感じられるので質問しているわけです。

〇人事課長（小沢正治君） ただいまの御意見のような懸念も一応配慮いたしまして、県下の市町村の一般職員から運営委員会を構成して、そういう型にはまった、天下り式にならないような配慮

も一応してあるわけでございます。

〇一〇番（渡辺軍治郎君） 何か趣旨がよくわからないんですね。これ以上質問しても、いままでの回答では疑問に思うわけです。以上質問を終わります。

〇九番（辻田 実君） 最初に条文の解釈でちょっと理解できない点について二、三先に質問いたしたいと思ひます。

九条の中に管理者並びに副管理者及び収入役というふうに置いてあるんですけども、これを受けて管理者と副管理者は市町村長の中から選ぶということですけども、十条の収入役については任期だけがきめてありまして選ぶ方法は書いてないんですけども、これはどういうような解釈をするのか。部外とか、そういうものが出てくると思うんですが、どういう適用になるのか。これは役員の中において三役というところで九条で規定されておりながら、収入役の件については任期だけが示されておるといふことはどういう意味を持っておるのか。

それから十三条の監査委員の定数はきまっておりますけれども、これについても選出と任期がここにはないんですが、普通こういうふうな条文ですと執行、それから会計、監督という三つの部門は三権という形の中でもっておのおの選出母体、任期というもののがきめられておるわけでございますけれども、何かこのところがいま言ったように、収入役は任期だけでも選出基準がない、監査役は定数だけでもって任期もなければ選出の方法もないように見受けられるんですけども、この種のものはこういうことでいいのかどうか。この点の解釈はどのようにしたらいいのか。

この点についてまず御質問いたします。

○人事課長（小沢正治君） 一部事務組合のこういう関係につきましては地方自治法の中で、市町村で編成する関係については市町村に關係する自治法のもろもろの規定が原則としてそのまま適用になるわけでございます。

したがって原則でない部分を明らかにしまして、原則そのものを用いる関係はここでうたう必要がないという考え方でございます。収入役につきましては市町村に適用になっておりまして、長が議会の同意を得て選任するという原則がそのまま監査委員についてもそのまま適用されるわけでございます。

○九番（辻田 実君） その点についての解釈はわかりました。

前回からの説明でございますと職員の研修ということが中心に見受けられるんですけども、四条の処理事務からまいりますと、一条の後半等を見ますと職員の能力開発ということもさることながら各種の行政施策の調査、研究及びその普及ということがあるわけです。

四条の一はいいですけれども、三、四、五、六、七という形の中でもってかなり自治人材センターの設備とか、町村に対する研究機関とか、自治情報センターとか、設計、監督、検査、受託及びあっせんとか、市町村職員の統一採用試験の実施というようなものが出てくると、これはかなり地方自治体の固有的なものがこの中에서도入っておるわけですけれども、こういう面については地方自治体のそういった自主性というものがおびやかされるような形にもなるようだし、一と二の関係というのはどのような形の中でもってやられるのか、その点についてお伺いしたい

と思います。

私は説明の中ではどうしても一が中心であって二以下というのはほとんどないんじゃないかと思って、条文を見ますと二以下ずっと並んで市町村の統一採用試験を自治センターでやるんだとか自治情報センターを設置するとか、いろんな市町村経営に關する研究機関とか、そういうことまで自治センターがされて、市町村に対する経営ということはわれわれ議員がやるようなことじゃないかというように感じもしているわけです。

市町村の経営ということは立法、そして執行、そういうものが経営だと思ひんですけれども、ここで言うところの市町村の経営というのは何をさすのか。

そういうものに対しての研究機関となってくると、地方議会が要らなくなっちゃうような感じがするんですけども、これは神性質な解釈だというふうになるかもしれないけれども、われわれ議員にとってみれば、市町村経営までやるということになれば議員そのものの権限と権威の問題になるので寸分たりともあいまいにはできないわけでございますので、この経営というようにいふと、これはどういふ内容なのか、意味なのか。その点についていふ言つたように議会の内容等のかね合ひでもってどのように思っておるのか、お伺いしたいと思ひます。

○人事課長（小沢正治君） 若干考え方の相違があるようでございますけれども、一応ここで掲げてございます各号の關係は自治センターを設置いたしました直ちにこれを網羅してスタートするといふような形ではないわけで、若干研修を主体としたせつかくそういう施設がつくられるんだからここまで充実したものにししたい

という要望がこのような六項目になったわけでございますけれども。

特に自治経営ということばが適切かどうかという考え方もあるかと思いますが、ここでは経営という関係につきましましては、いままでそれぞれ市町村が経営診断というようにすることで長期計画やら長期展望に立ったこれからのその市町村のとられるべき発展計画の将来性というようにすることについて、民間コンサルタントあるいは大学の学者さんたちにお願ひしてそれらの診断を行なってきたわけでございます。それをさしているわけでございます。

そういう関係で全く部外の学者さんたちによってそういうことをやるよりも、われわれ自身が自分たちでそういう勉強をしなからこれからのそれぞれの地域の発展計画、将来計画というようにものを具体的に研究したほうがより着実で実のあるものになるんじゃないかというような考え方があるわけでございます。

ですから、ただいま御懸念の議会の権限云々というものは全く関係ありません。

○九番（辻田 実君）　そういうことばのやりとりじゃあれなんですけれども、やはりこういう中で市町村の経営ということと診断というところで、全然違うということでございますけれども、説明で私のほうでも全く理解ができないから、意見が食い違っているから質問するんでもって非常に心配されるわけです。

私は再度この点について関連させて二の自治人材センターというのはどういうことをさすのか。悪く言えば県の役人を地方の助役、収入役、土木課長とか、そういうものに回してどうこうとい

うことをやって、それが各市町村でもって県のあれじゃないとか、いや市町村じゃそういうことを流入することによって非常にいいんだというようなそういう問題と、特に最近では少なくなってきたおりますけれども、県で言うと三十ぐらいの人でも市へ来るとたちまち部長になっちゃってしまつて、自分のおやじみたいなのを課長補佐にしてやるという傾向がしばしばあって、これが職員の間で問題になって、いまじゃそういう傾向は少なくなってきた、最近自治労も強くて、県あたりの部長クラスになると主要官庁の役人の三十そこそこないとなれないというような状況でありますけれども、そういうようなサルまねみたいなことをさすんではないかというような感じもするんですが、先ほどの経営ということとは診断だということになりますと、二の自治人材ということとはそういう前例がありますから、ここに繰り入れられるということがあるのか。

人材というのはどういう意味をもって意図しているのか。その点についてだいたい意見が食い違ふようですから、その点について御理解いただけるようにお願いいたしたいと思います。

○人事課長（小沢正治君）

この関係につきまして、全く県下の市町村の要望によって取り入れられたということを伺っております。

どういう種類かと申しますと、このように説明されておるわけでございます。「近時、市町村においては、土木関係等技術職員に著しい不足を生じ、一部の市町村では県職員の派遣を求めている。しかし、今日、この派遣職員をもって十分充足されるものでなく、むしろ県においても技術職員が十分でない現状においては、今後更に増加するであろう市町村の技術職員の需要には全く応え

られない。そこで少いこれら技術職員を有効に活用するための方が是非必要である。」というようなことから人材センターというような形といますか、表現をとってきたというふうに考えられます。

具体的には市長村の要請に応じておおむね次のような機能をはたしていくようにしていきたいというのが、都市計画、都市再開発等の技能の提供、技術職員不足の補充というような計画をもっているようにございます。

特に都市再開発の關係になりますと、柏あたりで実例があったわけでございますけれども、その年で再開発の設計なり監督が終ってしまえば継続的にそのような技術が必要とする職員を十年も二十年も置いておく必要がないような、短期の高度の技術を要するという分野がこれからかなりふえてくるんじゃないかというところで予想されるわけでございます。そういう場合にその職員をその市で長期的に採用しようとするとき非常に苦勞する、それが自治センターというものを通して、その必要に応じた市町村へその期間だけ派遣するような形をとってほしい、市町村ごとに苦勞することともなくなるであろうというように構想だろうと思います。そういう關係から特に建設工事の設計とか監督、検査、そういった關係の受託、あっせんをやっているようにしたいというように構想でございます。

〇九番(辻田 実君) 私はそういう確かに市町村長、私に言わせれば非常になまけもの、横着な市町村長が自分のところで育てるよりも県、国のほうからの補助金、交付金をもって、三割行政といわれるような状況、特に館山あたりでは三割どころじゃなくて

もっと自主財源は少なくて国の事業とか県の事業、そういう補助金、交付金でやらなければならぬということだから、むしろ上からの職員を引っぱってきてそこにコネをつけてやれば何とか自分のほうの補助金多くなるんじゃないか、何とかなるんじゃないかというような何か非常に安易な、あまり正常でない形の、これは最近の社会ではそういうほうがりこうだといわれることもありまされども、そういうような筆法の面の形の人材確保にはしないかと、私はここでもって言いたような方向のものがこういう立案の中でも出てくるんじゃないかという面の心配なんですけれども、課長の答弁だとそういうのは逆で市町村だということでもございましたけれども、そこらの開きがありひど過ぎるんですけれども、これらについては現実の問題としては県や国の補助金、交付金を多くもらわなければならぬ自治体が運営できないという町村が多い中で、特に館山市はそういう中にあってそういう人をこっちで入れることによって現在の受け入れ体制として現実には優遇していくというような状況になってきて、そういうことについてむしろこういう形の中でもって確保ということをやっていくには職員間のそういう問題も出てくるのではないかと思います感じもするわけですが、このことについて職組とか、そういう人たちとの討議があったのか。

むしろ市長、トップリーダーの方の、さっき申し上げましたような非常に便宜的な形で出ているような気がしてならないわけですが、この問題は将来大変な問題になりかねないというふうに思うわけでございますけれども、そういう点については心配がないのかどうなのか。特にそういう職員組合等の抵抗、そういう

うものについて考慮されたのかどうか。その点についてお伺いしたいと思います。

○人事課長（小沢正治君） 当面の問題といたしましては、当市の場合このような不足から長期的な人材を受け入れるという必要はまだ生じておりませんし、また考えもないわけでございます。

人材センターというのは、そういうふうに一つの市町村で長期的に技術者を採用するという形に対しては側面的な相談とかあつせんとかというような形でまいるということで、具体的には先ほど申し上げましたように短期間に高度の技術を必要とするというような場合を特に重点的に考えているということで、その市町村で独自に採用することが非常に困難だということを援助するという考え方でございますので、なかなか天下りのとか、あるいは外部から当然なんかの縁故的な形のもので相当高額な給与を要する等級等の関係の職員が入ってくるというような形は全然考えられないわけでございます。

だからそういう関係では別に私どもといたしましては職員組合との話し合いとか、その他の関係は現在のところ発生するという予想は全然しておりません。

○九番（辻田 実君） 二番目の問題、この問題については館山市はたいして必要でないというようなことですから、この点についてはいいんですけれども、六番目の統一採用試験実施、こういう強い語調で書いてあるわけですけれども、館山市は安房郡市の統一試験云々というようなことも消防だとかやっておるようでございすけれども、市町村職員の統一採用試験ということについてはどう考えておるのか。ここへ移行していいののか、移行して

いきたいという意向なのか、この点についてお答え願いたいと思います。

もう一つは自治センターの一の研修の人員、これはどのぐらいを予定しておるのか、工費は六億一千万円程度で云々ということをいわれておりましたけれども、これらの問題からみてどのくらいのをやるのか。

私はむしろこういうものをせっかくもっても、これは千葉県下相当の人材がいるわけですから、館山市の職員も何人かしはいけないんじゃないかと、それがエリートとか、行ってきた人については主事になり、係長になるという形のものになってしまふんじゃないかと。そうなるとそのことがかえって問題を起すようなケースじゃないかと思うんですけれども、定数がどのくらいかによって問題が出てくるので。

職員の統一採用試験に市は動いていく方向なのかどうかということ、定数はどのくらいなのか。その点について二点お伺いしたいと思います。

○人事課長（小沢正治君） 職員の採用試験については、統一に行なうという関係は現在各地域別に、たとえば安房郡市は広域市町村圏組合がございすのでそれを単位に実施しておるといふことでございすけれども、これの試験問題から採点は全部県の人事委員会や地方課が依頼を受けて実際には行なつておるといふ実態でございす。それを一部事務組合に移すということにつきまして、採用試験の実際のあり方というものは現在と全く変らないということでございす。

それから研修関係でございすけれども、これは現在も行なっ

ておりますけれども、機会も数も非常に少ないわけで、これもさらに強化していくというわけでございまして、初任者研修から中級、係長級、上級職、さらには専門的な研修といたしましては土木、行政事務管理士だとか、税務事務、財政事務、選挙事務、そういった専門的な関係の法規と実務の研修を充実していきたいというところでございます。

要すれば、泊まり込みでもというような考え方を持っておりますもので、一応八十名の宿泊施設もこの中に持つというような計画があるわけでございます。

まだ具体的に研修の計画は、講師の充実とか、派遣のあり方というようなことが確定しておりませんので、これが一応来年度の一月一日発足した段階で、急拠総務系統の人員を整備いたしました上でいろいろ企画されていくこととなるかと思いますが、現在の段階では八十名の宿泊施設をフルに活用して、なるべく多くの職員をより多くの機会に研修を実施していきたいというような考え方でございます。

〇九番（辻田 実君） 今の自治講習をやられているようでございませけれども、これについても若干問題がございまして、その講習を受けることによって主事に昇格するとか、次の登龍門という形の中の面があるわけです。

他の官庁等については、その主事講習だとか、課長講習を受けないと次への昇給ができるとか、できないとかで、そのことが非常に問題を起している。

それが、一般の試験だとか何とかというのではなく、一介の人事担当者の考え方というような形の中でもってあんたが いいとか

だれがいいという形の中で、行った人は同期でも、職種等の関係もありますけれども、かなり昇給が早いとか、課長になるのが早いとか、そういうような日本の官僚主義が、非常にいいところもありませけれども、わるい面を持ったところの反面というものが八十名という研修の中に出てきはしないか。八十名の人をかなりびしょとやっても都市の人口とか、職員数ということになってくると、館山で受けられる数は一年間に何名でもないということになってくると、その人に対するところの、今でも多少そういうおいが講習を受けた人と受けない人では昇給度合がどうかということになりませけれども、こういう權威を持ったあれになってくると、登龍門の要素がかなり出てくるんじゃないか。

大体、東大を卒業して高等文官試験を受けて合格するような県の部長クラスの人はエリート道を歩いていますから、あんがいそういうことについてはエリートのエリートをつくることによって、官僚機構だという色彩が非常に強いことを私はつぶさに知っています。人事課長も知っています。私も知っています。そういうような嗜好でこういう意図が出てきはしないか。そういうことについての規則なり方向性についてはどのように考えておるか。その点についてお答え願いたいと思います。

〇人事課長（小沢正治君） 現在館山市においてはそういう差別関係は全く拂っておりませんので、この自治センターの関係につきましても講習を受けた、受けないということによって昇給とか、昇格を差別はできないと思いますし、またそのような懸念されればされるほど幅広く平等に機会均等をはかっていかなければならない。そのように考えております。

〇九番（辻田 実君） 最後に、建設費でもって三十二万、運営費で二十万という額が割り当てられたという内示があったという説明があったわけでございますけれども、これはどういう根拠なのか。

ほかの団体でもそうなんですけれども、よく市長さんは言われますけれども、勤労者労働センターということで、千葉市にあるから館山の利用者が少ないだろうということで負担金を納めなくて、大した英断だというように考えております。私は館山に建つなら賛成ですが、千葉へ建つと旅費もこっちでもって速くなるし、私はこれに類似するような問題じゃないかというふうに考えますけれども。私は市長さんの労働者福祉センターの設立について負担金排除、千葉県下でただ一人でございますけれども、なかなか御立派でございますけれども、この種のものについては長いのになまかれるということなのか。この点についての考え方はどういう考え方をしているのか。

私のほうからみると、同じように講習を受けに行くのに、旅費宿泊費というものがかかって館山は分が悪い、そういう中でもって負担金なり、そういうものの割合は少額にしろという根拠で出されているのか。そういう旅費とか、へき地というものが考慮されているのか。そういう点についてお伺い致したいと思えます。これはまだ概算でございますはつきりした額ではございませんので、大体そういう線という形で出ております。

議会費で大体百六十万、総務費として三千三百五十六万四千円、予備費八十一万、合計三千六百万程度というのが運営費というこ

とで、これは人件費が主体でございます。これは総務関係の管理事務の関係と監査委員費、それから新しくできます、自治専門校といっておりますが、自治センターの施設の関係で、講師関係で採用してくる人員を考えているということでございます。これも確定ではございませんのではつきりわからないわけでございますけれども、一応三千六百万程度だろうということでこれの八割を市で負担し、二割を町村が負担する、その割合は毎年四月一日現在で自治省の市町村職員給与実態調査というのがあるわけでございます。そこにあらわれてくる一般行政職の職員数で割るということで、その数が大体現在五百五十の職員数の中でこの積算の基礎となる職員数は館山で四百二十名程度でございます。それが一応二十数万ということでございます。

一方経費のほうは、かいつまんで申し上げますと六億一千万のうち六割を県が持つて四割を市町村で負担する。この四割の中でできるだけ知事が起債をあっせんする、その起債を大体除いた額を約一億五千万と踏んでいただきたいということで、この一億五千万のうち一千万ずつ二カ年間市町村が出し合って、あとの八千万は最悪の場合県の市町村振興資金の融資を受けるという計算でございます。その十カ年間の利子と年度償還の額を先ほど申し上げましたように市が八割、町村が二割、それを職員数で割っていく、その負担額が約三十二万ということになるわけでございます。〇議長（吉田勇治郎君） 他に御質疑ございませんか。――御質疑なしと認めます。

委員会付託の省略

○議長（吉田勇治郎君） おはかりいたします。

本案を委員会付託を省略したいと思ひます。これに御異議ありませんか。

（「異議あり」と呼ぶ者あり）

○議長（吉田勇治郎君） 御異議がありますので、おはかりいたします。

本案を委員会付託を省略することに賛成の諸君の起立を求めます。

（賛成者起立）

○議長（吉田勇治郎君） 起立多数。よって委員会付託は省略されました。

討 論

○議長（吉田勇治郎君） 討論に入ります。

○一〇番（渡辺軍治郎君） 質疑の中で明らかになったことは、これは民主的に下から盛り上がって出てきたとは考えられないわけです。人事課長の説明では、一応こういうものを、何か便宜的なそういう考えを起こさせるわけです。

運営の問題が一つあります。人事課長の説明では、職員によって民主的に運営するというようなことを言っても、規定の中には一つもないわけです。管理だけしか書いてないわけです。管理者は市町村長が管理するということです。運営については民主的に運営するといっても、実際受けるのは職員で、その職員の意向を反映するには民主的な運営をやらなかったら反映されないと、したがってこれは上からの一つの統制的な役割を果たす危険がある

ということですが。

もう一つ。自治人材センターの設置及び運営というようなことでは、ここではさっき土木関係者の技術、人材が得られないというところで、特にそういうことが強調されて出てきていますが、大體土木関係の技術者というのは資格が必要です。一級建築士とかそういう資格をもって相当勉強しなければあとの管理とか、検査とか、監督とか、つとまらないわけです。そういうものが今回一般的自治センターの組織ではたしてそれだけの技能を修得できるかというところは問題です。これは当然そういう人材が一般社会に少ないから困っていると思うんですが、そういう人材が得られないとすれば、たとえば館山でどうしても必要だということなら職員の中から人材を選んで長期的な講習をやって資格が取れるような援助はやる必要があると思うんです。一般的なセンターでそういうことまでやれるかということになりますと――

一般自治の研究が個条書きになっておりますが、しかもこの中には職員の統一採用試験というようなことまで入っているわけです。こういうのは市町村自治にまかされている問題だと思ひますが、新しくこういうことを見解を一にしてやるということは地方自治の権限がおかされるんじゃないかという心配があるわけです。

そういう全体から見ると、何かここに行つた人と行かない人の差別が出てくる危険性がある。そういう点では一つの出世主義というものも当然出てくるし、行つた人と行かない人の差別も出てくると思うんです。

ですから、いままでやっている職員の自治研修というものを

っと強化するという方向で民主的に組織していくならいいですけども、管理者が市町村長で、肝心の一般職員の意向が反映されないようなこういうものでは私は賛成できません。

そういうことで、この自治センターを設置するということについての関係市町村と協議することになってゐるわけですよ。これが取り扱い上の協議についてここで賛成するということがなればすぐ採用するのか。そういう点も疑問がありますので、私はこういうものについてはただいま申し上げましたような理由で賛成することはできませんので反対いたします。

○九番（辻田 実君） 私は先ほども申しただけですけども、まだ内容について不十分であります。私はこの種の問題について十分のまま賛成というわけにはいかないんじゃないか。総務委員会とか特別委員会の中で慎重に審議すべき性質のものじゃないかと考えております。私はそういう意味でもって委員会付託を提案したんですけれども、否決されましたので、そういう観点で私はこの原案については採決保留をとりたいというふうに考えております。

特にこの議案は地方自治法二百八十四条一項に規定する一部事務組合として発足するということを認識しなくちゃならないというところでございます。一部事務組合ができますと、そこには事務組合の議会ができ、執行機関ができ、そこで全部運営されるというところでございます。

したがって、今後自治センターにおきますところの、さきほど質疑しましたところの、理解が私は不十分であつたわけでございますが、そういう不十分なものを全部われわれの手の届かな

いところに行ってしまうというところでございます。安房郡市の市町村の事務組合の場合でしたら市長並びに議長、これは出ております。したがってまして議員の代表ということでわれわれの意見も議長を通じてできます。

しかし、千葉県の一部事務組合については三十になんとする市があります。その中でもって会議に参加できる市長というのは七人しかいないんです。三分の二以上の市長も出られないんです。もちろん議会の代表は一人も入っておりません。館山は市長が実力者ですから入れれば通るかも知れませんけれども、館山市の市長が七人の中の一人、三十近くの市の中の一人に入らなかつたら、館山の意見というものは全くなひまま七人の市長と町村長三人の十人によって事業計画も予算もすべてきまつて、きまりましたから参加の自治体の方は賛成して下さい、広域圏の消防の問題も補正予算に出てきますが、とにかくここでもって議決して入るということになれば、全くまっ裸でもって向こうに一任しなくちゃならない。

こういう性格のものがこの二百八十四条一項にかかるところの一部事務組合の性格です。その中においては議会の議長も議員の代表も一人も入っていない。そういうところに予算も執行も議決も全く委任する。そして地方自治体の古来の自治権であるところの職員の採用の問題、人材の問題とか経営に関する問題まで、診断というところで解釈しましたけれども、この文章じゃ、日本語の解釈にはいろいろありますけれども、診断といつても市町村の経営に関するといふふうに印刷してあるんですから、ここでもって課長、市長がいまのような答弁でもって、診断ということでもって

たいしたことはないんだよといっても、しかしながら文章に経営というふうに書いてあるんですから、市町村の経営に対してできるんだという解釈はできるわけです。

こういうようなことを、私はいまのだいぶ意見の食い違いの中でもって煮つめないで、議決どおりに効力を發揮して全部まかせるということについてはかなり冒険じゃないかと、いまその段階じゃないというような気がするわけなんです。

そういう意味でもって私はこの面について、しかしながら市町村長が集まってこういうものをつくらうということでございますから、ある面ではいいものがあるかも知れない。しかしながらいいものがあるかという面も非常に欠陥があるという面も結論が出てない。館山市として白紙にするだけのものがこの文章の、いまの答弁の中には出てないということで、この面については賛成もできかねないし、かといってこのセンターでやるということについてはまっ向から反対ということではできかねないので、困るので保留したいわけでございます。

特に日本は、地方自治というのは戦後二十八年でございます。ヨーロッパのように百年の自治をもっているその都市は非常にたまって、中央政権よりもその土地のほうが強いところであるにもかかわらず、日本はまた中央政権のほうに帰ろうという傾向の中で、この中でさらに地方自治も強めようというときに、この種の問題は二百八十四条一項の一部事務組合設置については慎重を期していただきたいということでもって、私はこの面について保留をいたしたい。できれば継続審議等お願いしたいということが私の意見でございますので、特別委員会付託は否決されました。

で、継続審議へ移行することを要望いたしましたして、私は態度を保留したいということでございます。

○六番（栗原一雄君） 千葉県自治センター設置に関する議案第七十三号について賛成いたします。

広く知識を求めて時代の変化に対応できる職員の研修は時代の要求であり、必要であろうと思います。常に共同研修の場所としては現実的には少ないと私は考えるわけでございます。

そういった意味からも、事務の能率化による向上は内部機構等の改革により、さらに大きな住民福祉につながるものと思いますので、以上をもって賛成いたします。

○議長（吉田勇治郎君） 他に討論ございませんか。― 討論なしと認めます。

採 決

○議長（吉田勇治郎君） これより採決いたします。本採決は起立により行ないます。

本案を原案どおり認めることに賛成の諸君の起立を求めます。

（賛成者起立）

○議長（吉田勇治郎君） 起立多数。よって本案は原案どおり可決されました。

議 案 の 上 程

○議長（吉田勇治郎君） 日程第七、議案第七十四号館山市児童遊園の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例の制定についでを議題といたします。

議案第七十四号 館山市児童遊園の設置及び管理に関する条例

の一部を改正する条例の制定について

質 疑 応 答

〇二二番（田村源治郎君） 布良の児童遊園というのはいつごろこしらえたんですか、第一点目。

それから中の設備はどのようになっているか。

あそこは国有地であるのか。番地が、間違はなく布良番地であるのかという三点をひとつ。

〇福祉事務所長（斉藤武男君） お答え申し上げます。

完成は、十二月の初旬に完成をいたしております。

設備の関係であります、立体交差のすべり台が一台ございます。これはコンクリート製になっているわけでございます。それからオーシャンウェーブが一台、そのほかに車止め、防壁等が設置されておるわけでございます。

場所につきましては国有地でございます。

〇二二番（田村源治郎君） これは大体二月か三月ごろ、ことしこしらえたんじゃないですか。それからややこしらえて、十二月にこしらえたといつて、二月か三月ごろにはあそこでき上がったいろいろなものをやっておった。いままでほうりっぱなしだったんじゃないですか。そしてあそこにタイヤを置いて、常日ごろみんな飛び込んで、大体四月ごろ全部でき上がったんじゃないですか。いまになって、夏の定例会も出さなくて、九月の定例会も出ずにこの十二月の中旬にできましたと、いままでほうりっぱなしで置いてあったのか。私は早くこれは出すべきもんだらうと思う。布

良の遊園地の人に、もうこしらえちゃったんだといっているというところは、四月ごろできたものがいまここに出てくる。それで国有地である、払い下げたものによって延ばしてあったなら仕方ないけれども、いま国有地だということを言っておるけれども、ここには布良番地、国有地にあるものが布良何番地出てくるか、おかしいようなものを感じるが、はっきりあそこ番地は布良番地なのか。国有地は払い下げであるのか。今度載せたときにはっきりここに十二月五日の提出で完備されるために延ばしてあったのか。地所の関係で延びたのか。内容の関係で早くしてあるのかという点はっきりお答え願いたい。

〇福祉事務所長（斉藤武男君） この土地の関係につきましては、地元の方々の強い要望がございまして、昨年の七月にあの場所を遊園地の造成をしたわけでございます。その時点では市の予算をいただかなかつたわけでございますけれども、本年度の予算の中で児童遊園地として、先ほど申し上げました器具の設置をいたしまして、児童遊園地として設置をしたいということをお願いを申し上げたわけでございますが、途中地元の方々のいろいろな御心配をいただきましてタイヤ等が勤労奉仕いただきまして行なったわけでございますが、とりあえず昨年の夏に、小さな器具でございいますけれども、すべり台、その他を入れておいたわけでございます。そこで本年計画どおりに立体交差のすべり台を、コンクリートでございいますけれども、九月の下旬から着工いたしまして、このほど完成をしたわけでございます。

土地につきましては海岸地先でございまして、県土木の使用許可をいただきましたことをお願いを申し上げた次第でございます。

す。

〇二二番（田村源治郎君） これは払い下げがつかなくても、あれは水産事務所かなんかの管轄だろうと思うんですが、それとも払い下げちゃったんですか。

それからあれを開園したとき、確か相の浜も開園式をやっている、これは何月ごろやったか。

水産事務所だったらすぐ話になると思うんだが、地元の話し合ひについては、水産事務所から二百メートル以上離れているからどことどこが払い下げがきくんじやないかと思うんだが、借りてゐるんなら幾らで借りているか。

〇福祉事務所長（斉藤武男君） お話のように一応あそここの場所につきましては水産事務所より借用をいたしております。

それから開園式は、先ほど申し上げましたように今月の初旬に完成をいたしておりますので、この条例のお認めをいただいた時点で、また市長の御都合の時点、地元のそれぞれの関係者の御都合等がございまして、いろいろ打ち合わせをいたしまして、その時点で開園式をしたいと、このように計画しております。

〇二二番（田村源治郎君） 地所の地代について。

〇福祉事務所長（斉藤武男君） 無料でございます。

〇議長（吉田勇治郎君） 他に御質疑ございませんか。――御質疑なしと認めます。

委員会付託の省略

〇議長（吉田勇治郎君） おはかりいたします。

本案は委員会付託並びに討論を省略して、直ちに採決したいと

思います。これに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

〇議長（吉田勇治郎君） 御異議なしと認めます。よって決しました。

採 決

〇議長（吉田勇治郎君） おはかりいたします。

本案を原案どおり可決するに御異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

〇議長（吉田勇治郎君） 御異議なしと認めます。よって本案は原案どおり可決されました。

議 案 の 上 程

〇議長（吉田勇治郎君） 日程第八、議案第七十五号昭和四十八年度館山市一般会計補正予算を議題といたします。

議案第七十五号 昭和四十八年度館山市一般会計補正予算（第三号）

質 疑 応 答

〇一〇番（渡辺軍治郎君） 二〇ページの六目一九節の負担金補助及び交付金の問題ですが、ここにはし尿処理費として二百二十五万三千円、それから常備消防費として百九十八万八千円の計上がありますが、この二つの問題については通告質問の中でし尿処理場の公害問題をとり上げたわけですが、時間切れで回答をいただかなかつたので、この点について関連して質問いたします。

もう一つは常備消防費の問題ですが、これは緊急質問でデパートの火災に対する問題と今後の防火体制といえますか、そういう二つの問題についてしたんですが、一応全員協議会で質疑応答がされて、その中で私の疑問に思ったことはまだはっきりされておられませんので、関連してここで質問いたします。

第一の処理場の問題ですが、通告質問のときの回答では、広域市町村圏の処理場ができて藤原の処理場は残すという回答があるわけですが、現在の藤原の処理場の能力に対する稼働といえますか、そういうものをみますと、大体四十五トンの能力に対して十一月の月平均でみますと七十一・一六四キロという数字が出てくるわけです。かなり消化能力をオーバーした数字が出ている。結局こういうような状態で広域市町村圏の処理場ができた場合にはこの藤原の処理場は残すということですから、大体四十五キロ程度のもので残すのか、どういうふうに残すのか。それから新しくできる広域市町村圏の処理場の能力といえますか、どのくらいの能力を持ったものをつくるのか、そういう点について説明をお願いしたいと思います。

もう一つは、現在の藤原処理場の、私は公害問題を取り上げたわけですが、特にガス漏れですが、第一消化槽のガス漏れが三十三カ所あるわけです。第二消化槽のガス漏れは二カ所ですが、第一消化槽のガス漏れは相当ひどいものです。私は事務所に入っている二日で、銅線が真っ黒に変色するぐらいの、ポケットの銅貨も砲金のバルブ類も一日で変色するというような強いガスの影響があるわけです。これは科学的にはどのくらいの有害物があるのか。あそこではガスが上へ発散しちゃうんですよ。発散して

も、私は二回行きましたけれども、九月のときには窓があいていましたから悪臭が事務室の中にどんどん入ってくるわけです。三十分ぐらいそこにいたんですが、気分が悪くなって寝たぐらいです。それから、相当ひどいガス漏れがあると思うんです。先だって行っただけは窓がしまっていてあまり感じなかったわけですが、あそこ働いている従業員に危険性がある。その中に人体に有害な硫化水素が含まれているわけです。結局公害に対して従業員には吸わないように、注意はこれだけなんです。ガスの影響というのは私のような初めてそこに行った人間にはきつく感じるわけです。そこにいる人間には慢性化しているわけです。ガスを吸ったからすぐあした倒れるというような問題じゃないわけです。長い間過ぎていって、水俣病を見てもわかるようになります。先にいけば危険性があると思うんです。そういうところで危険作業に従事しているということで、三月には特殊手当が二百円だか上がったんですが、従業員がそういう中で働いているわけですから、そういう従業員の健康管理をどうやっているかということを知ると、大体年間二回の健康審査だけなんです。そういうことではたしでいいのかどうか、ひとつお伺いしたいわけですが。

しかしあそこ処理場を残すにしても、大体いまのガス漏れをそのままにしておくのか、相当大きい影響力があるのにそのままにしておくのか、いつなおすのか。コンクリートのまわりを二十五センチぐらいのコーンタールで囲んであるわけですよ。漏れているところを見るともうコンクリートがぼろぼろですよ。それがそのまま放つてある。あまり無責任じゃないですか。こういう問題についていつ直すのか。専門家が行って十センチの厚さのコ

ールタールで囲めばいまいガス漏れは防げるというようなことがそのまま放置されているわけです。あまりこれは従業員の健康無視というか、人命を尊重しない、そういう姿勢があらわれているんじゃないか。そういうふうに考えられます。そういう点をどういうふうにやるのか。

それからもう一つは、処理水が非常に濃いわけです。大体三月のBODのあれをみますと九十一、COD八十五出てる。昨年あたりはBODは二百単位で出てきているわけです。そういう月が随分多い。ところがBODの検査水がこれは採水後四時間たって検査することになっているんですよ。ところが東京に送るために次の日になっちゃうわけです。相当の時間がたったあとで検査の結果が出てくる。そうするとかなり希薄されたものが出てくる。相当多いBODが出ているということは想像することができるわけです。しかも処理水が、私行ってみんですが、褐色ですよ。これは水が少ないわけです。大体今川の水を上げてやっていいますが、千トンしかないわけです。四十五キロに対して三倍の水が必要なんです。少なくとも今の七十トンの処理をするには二千トン以上の水が必要なんです。ところが千トンしかないわけです。しかもここで使用されている促進剤は四十五トンに対する比率の促進剤しか使っていないんですよ。七十トンに対する促進剤ではないわけなんです。こういうところにも消化能力の減退というものがはっきりしているわけです。この汚水が結局平砂浦の海岸を汚染して魚が寄りつかない、おそらくこのまま放置しておけばあそこは磯が荒らされて、アワビ、サザエの磯根を荒らされる危険性もあるし、やはり希薄してやればいくらかはいいでしょうけれど

ども、しかしいまのような千トンの水で七十トンの処理をしているたんで、このままでは海を汚染することははっきりしています。こういう問題をどう処理するのか。

建物についても十一年ぐらいたっているわけです。十五年ぐらいの補助基準は、十五年であそこは壊てかえなければならぬというような時期にきているわけです。新しく処理場をつくる、藤原はそこへ残すとしてこういう問題をどう扱うのか。十五年でもっといいものに改築するのか。ここにある施設は七年の補助期限が切れちゃっているわけです。こういう施設だつて取りかえなければならぬ時期にきているわけです。そういうものが放任されているわけです。こういうものを一体市はどのように考えているのか。だから藤原の処理場は残すといっても、どういうふうに残すのかという問題です。こういう公害があるわけですから早急に直さなければいけないと思うんです。

最近勤務のあれにしても三交代で、要するにこの前説明があったように、二十四時間勤務するというようなことをとって、現在六人でやっておりますが、パキウムカーに乗って出る人がいるから一人は足らなくなるということで、補正予算の中にも確かに件費のあれがあると思いますが、そういう臨時人夫を増員としてずっとやるのか、そういう点も聞きたいと思います。

答弁が終ったあとで消防の問題に移りたいと思います。

○議長（吉田勇治郎君） 一〇番議員さんに申し上げます。一〇番議員さんから提出のありました緊急質問につきましては日程最終に上程することになっておりますので、そういうことに議事上は運営が決定しておりますので、さっきの発言の趣旨は考慮を願いた

い、そのように考えますが。
暫時休憩いたします。

午後四時 十五分 休 憩

午後四時四十四分 再 開

○議長（吉田勇治郎君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

御答弁を願います。

○衛生課長（館石勘治君） ただいまの御質問に対しまして御答弁
申し上げます。

まず第一点として、投入量がオーバーしている現状でございますが、四十五キロについて七十キロ、こういうことでございますが、そのとおりでございます。それでガス漏れについてですけれども、一カ所確かに多く漏れているところがありまして、その他の個所についてはそんなにたくさん漏れているわけではございませんので、一カ所については早急に漏れないよう先般から現場と連絡をして、研究をしているわけでございます。これは早急に出るところは出ないように対策を講じます。

それから、これについて職員の健康管理の問題ですけれども、御承知のとおり健康管理は現在二回やっておりますけれども、現在まで職員からそういう状況等がこちらのほうにあまり言っていない点から、そういう点については配慮されていなかったんですけれども、今後これらの健康診断等を多くやる予定をもちます。

処理水の、放流水が非常にBODが多いんじゃないかというお話ですが、これは十一月三十日で検査した、これは市で検査したんですが、放流水のBODは六十三・四とほぼ基準に近い数字を

示しているわけでございまして、今後ともこの放流水のBODは下げてまいらなければと思っております。

それから、なお水の色が非常に濃いんじゃないかという御質問でございますが、これにつきましては新年度早急に、先般市長より答弁のあったとおり二、三千トンぐらいの水を希薄して出せるように現在計画しております。

それから、二十四時間制の問題ですが、臨時職員を一人入れて今後それを続行するかという御質問でございますが、これは今後続行していく予定でございます。

○議長（吉田勇治郎君） ちょっと議長に発言させていただきまして、ただいま火災のために交通課主幹と交通課長が緊急を要するために席をはずしましたので、状況により帰りを要求しておりますが、御了承願いたいと思います。

○一〇番（等辺軍治郎君） ただいまのお話では、いまあるガス漏れなんか一カ所修繕するというお話ですが、三十三カ所あるんで一カ所だけ多く漏れているというような点ですが、三十三カ所のうち一カ所、これは第一消化槽の右のほうのところだと思いが、ほかにたくさんあるわけなんです。三十三カ所もあるんですから多く漏れないうちにそこいまま手を入れないと、とにかく広域市町村圏でやる処理場はいつできるかわかりませんよ。用地費としてここに計上されてありますが、買収だつてこれからどのくらいかかるかわからないわけですよ。まして建設ということになると何年ぐらい先になるか。いまの藤原の処理場は新しいところができるまで使うわけです。相当老朽化しているわけですから、ガス漏れやなんか人体に危険を与えるものですから、全部やるべ

きだと思ひます。予算編成時期に入っていますからそういう面でも十分予算をとってやるようにしてもらいたいと思ひますがその面はよろしいですか。

〇衛生課長（館石勘治君） 三十三カ所程度確かにガスが漏れるところは印がついてゐるんですが、これについては多く漏れるところは早急にやりまして、その他のところにつきましては来年度措置をするより予定をしております。

〇一〇番（渡辺軍治郎君） とにかくガス漏れが大きくなってから手を打つというのではなくて、そういうおそれがあるわけですから、相当大きな量をとにかく消化しているわけですから、事前に手を打って人体に影響を与えるガス漏れを押さえていくということとは来年度の予算でちゃんとひとつやってももらいたいと思ひます。

先ほど質問したんですけれども、四十五トンに対して七十トンの処理をしているわけですが、新しくできる広域市町村圏の処理場はどのくらいの規模のものかひとつわかつていたら教えていただきたいと思ひます。

〇衛生課長（館石勘治君） 百キロでございます。

〇一〇番（渡辺軍治郎君） 百キロといいますが、館山市だけじゃありませんよ。おそらく三芳村、あるいは和田とか、場合によれば処理場があるところでも能力以上にこれは出てくる可能性があるわけですね。館山だけみたら三十五トンオーバーしているわけですから、そうするとほかのやつもやってくると今度はどこでも能力以上にやるようなことになりますよ。だから当然つくんなら相当大規模なものをつくって将来不安のないような方向でやる必要があると思ひますが、百キロぐらいで間に合ひますか。

〇助役（畠山 伝君） お答え申し上げます。

広域市町村圏で百キロという量を一応きめましたのは、館山、朝夷、鴨川、この地区での増設計画というのが鴨川が二十、朝夷が四十五、館山三十五というようにすることを基準にいたしまして百キロというものを出したわけでございます。

ですから、館山市が三十五とはありますけれども、ときによってはそれがそれ以上入れられることもできないわけではございません。しかし安房郡市総体で考えた場合、将来やはり浄化槽整備があるとは言ひながらふえるということも考えなければならぬと思ひますけれども、とりあえず百キロ程度でやっていけるんじゃないかという見込みを出しているわけでございます。

〇一〇番（渡辺軍治郎君） ただいまの話では二十、四十五、三十五と、現在館山でもオーバーしているわけですが、いまオーバーしているわけですから夏になって相当避暑客やなんかが入ってくるのと相当オーバーすることが考えられるわけですよ。それは館山だけじゃなしに鴨川でもそうだと思いますし、千倉もそうだと思います。それぞれのところでこの程度のを、余ったやつを、いまある処理場のオーバーしたやつを集めてここでやる、広域市町村圏でやるんだということでは、百キロぐらいでは、相当いまの数字では百キロぐらいだけれども、将来観光レクリエーション地域として人が大勢入ってくるという見通しがあるわけですよ。そういうことを考えますと百キロでは少ないんじゃないか。そういう点をいろいろなところから将来のことを考えて、いまの時点でものを考えるところから将来のことを考えて、いまの時点でいくのか、そういうよそから入ってくる季節的なことも考えて、

もう少し検討する必要があると思うわけです。つくっちゃうとそれを拡張することはなかなか困難ですから、最初つくるときに相当大規模のものをつくって心配のないような態勢をつくるべきだと思ふんです。これはひとつそういうふうにやってください。要望しますが、いいですか。

○助役（畠山 伝君） 広城市町村圏の百キロにつきましては、オーバーした分も当然考えられますが、なお、一カ所修理する場合にその分をかね合せて考えておりますけれども、おことばのように将来非常に夏季等はふえることも考えられますので、これはまだこれに決定したわけでもございません。一応そうした計画で進んでおりますので、検討はされるように願いたいと思います。

○一〇番（渡辺軍治郎君） こういう問題はゴミ処理でも同じですけれども、十年先を見て、そういう観点に立って設計やなんかやってもらってそのときに大丈夫だという方向で検討してもらいたいと思います。

いまある藤原の処理場ですが、七十トン処理していても促進剤は四十五トンの促進剤しか使っていないです。だから無理があるわけなんです。したがってガス漏れやなんかも多くなるし、消化能力がないところにもってきて促進剤が少ないわけですから、かなり濃度の高いものが処理水として出る。当然水が足らないために促進剤を使っていると思うんですよ。その比率が四十五トンに対する比率しか使っていないわけです。七十トンに対する比率の促進剤を使わなければどうしたって濃いものが出るわけです。あるいはガス漏れにしても促進剤の不足から出るというようなことが起りますから、促進剤を七十トンに対する促進剤としてつかうこ

とができますか、できませんか。その点一点。

○衛生課長（館石勘治君） 量が多くなるとやはり量を多くしておるんでございますが、夏場を一番多くしております。あそこへ入りますものは約一カ月前から入ったものが一カ月後に出ていくという形でございますので、現在私のほうでは六十キロを単位にして促進剤を〇・〇三投入している。こういうふうに考えております。以上でございます。

○一〇番（渡辺軍治郎君） 現場でもって聞きますと、促進剤の使用方が四十五トンに対応するそういうものだ、実際には七十トン確かにやっているわけですから、七十トンに対する消化剤を使わなければ水が足らないわけですから、千トンの水でやっているんだから促進剤が必要になるんですよ。だから対応する促進剤は七十トンに対応する促進剤でなければ対応しないと思うんですよ。少ないというところに問題がありますから、そういう点は多少金がかかるかと思いますが、やってもらいたいと思います。どうか。その点は。

○衛生課長（館石勘治君） 今後現場の技術者と協議いたしましてそのようにやる方が効率的にできるという場合はそのようにいたします。

○一〇番（渡辺軍治郎君） そういう点ではひとつ気を付けてやってもらいたいと思います。

し尿処理場の問題はこれで終わりますが、常備消防の問題で関連する質問ですが、いとう屋の火災というようなものがありましたんで、それとの関連で二つの問題があると思うんですよ。

一つはデバートの火災というのは、熊本の太平洋デバートですか、

ああいうところと比べてみていわゆる死傷者もなかったし、類焼も防げたということでは消防署の活躍に敬意を表したいと思えます。しかし問題はまだほかにもデパートありますし、白浜方面に行きますと高層建築がありますし、こういう火災のおそろしさはまざまざと見せつけられたわけですが、今後の問題としてどういうふうにやっていったらいいかということで、若干質問したいと思うんですが、その内容としては二つあると思うんです。

一つはデパートの中の防火体制、もう一つは消防署の防火体制二つになると思うんですが、デパートの中の防火体制では大体消火器と警報装置は自動警報装置がありますけれども、有効に働いたのは報告のとおりですが、火を消すためには消火器と消火せんしかないわけです。この地図で見ますと一階、二階、三階、四階とみんなトイレットのあるところに消火せんがつくられています。この消火せんは水道を利用したものなのか、自家水でつくられているものなのか、その辺をちょっと教えてもらいたいと思います。

○交通課主幹（岩田 実君） 答えいたします。

あれは水道を利用したものでございまして、一たん水道から屋上のタンクへ水を入れて、そしてその圧力でもって放水するようにしております。なお、同時にポンプ圧力を加えまして落差とポンプ圧力と両方でもって圧力を加えて放水するような装置になっております。

○一〇番（渡辺軍治郎君） この問題は、この地図で見るとトイレットのすぐそばにあるわけですよ。先ほどの説明では使い方を知らなかったかわからないけれども、一応取り乱したような形で使

ったか使わなかったかわからないような状況にあるという説明ですが、一体あのくらのタンクでああいう火災が起こった場合に消火せんが使いたれないということもあるかもしれませんけれども、あのタンクくらの水で消火せんがはたして役割を果たすのかどうか。そこらは今後の問題として検討する必要があると思うんです。

水道とすれば、いまの房州水道の場合では、水が普通の場合でも高いところは出ないわけですから、おそらく水圧の関係で消火せんの役は水道ではできないと思います。地下水でやるにしても停電すればモーターが動きませんからこれにもたよれない。

そうすると相当大きなタンクをやっぱり常備しないと、その水を消火せんを使うということになりますと、そういう関係が出てくると思うんです。そういう仕事をいままてやったのかどうか。これからやる考えがあるのかどうか。

もう一つは防火管理責任者というものが百人以上のところにくるといふことになっているわけですが、これは法規で義務づけられているわけですから。しかし管理者をきめただけではたしてそういう器具の取り扱いがすぐできるかというところ、そうはいかないと思うんです。管理者は全体を見て、その中で一体防火体制をどうするかという配慮はできると思いますが、実際の仕事をやる場合にはその係を一階、二階、三階、四階ときめておいて、その係に扱い方やなんか教えるというふうな、そこまで具体的に指導をしなかったら、先ほどの報告のように使ったか使わなかったかわからないように、ホースがそこに散らされていったということになると思うんです。だからそういう意味では防火管理者

が十分に部下といえますか、担当担当をきめてやるような、そういう指導が必要ではないかということが考えられるわけです。

もし消火せんが、一階のトイレから出たとすればすぐに、トイレのそばに消火せんがあるわけです。ここにちゃんと水が行っていたらおそらくここで消せたと思うんですよ。それができなかったためにあれだけ大きな火災が起きたと思うんですよ。ちょっとした不注意、扱い方ができないためにあれだけの火災が起きてしまった、そういう点ではデパートの中の消火せんにつながる水の問題、その扱い方の問題は相当消防署として、デパート、そういう人のたくさん入るところでは特に嚴重な指導、監督が必要じゃないか。

もう一つは消防署のほうの体制の問題ですが、私はあの火事を見て、かなり早く消防車出動して五十台近くの消防車がやったんですが、これは水の問題ともう一つは私が見ていて四階まで届かないわけです。水が、風が強いために流れちゃって燃えるのを見ているというように、私もそれを目の前に見て、高いところへ届くような方法を考えるということでは、先ほど質問の中ではしご車、あるいはしごを登ってホースをやる、そういうものを必要だということでも五十年、五十一年、来年度というあればないわけです。これだけの火災が起こり、来年も起こるかもしれない。こういう季節風といいますが、いまの時期は盛んに吹くわけです。ちょっと間違えば大きな火事になる。そういうことも考えると高層建築に対する消火体制をやっばり早くやる必要があると思うんです。五十年を待たずに四十九年度の予算化でやっていくと。

問題はその消防車が道路がせまいために、はしご車とすれば相当長い車を通るわけです。館山市の道路ではしご車のような長い車がカーブしているようなことができるかどうか。そこらのことは相当やっばり考えてからしないと事故を起こすものになると思うんですが、その辺のあれはどう考えておられるか。

○交通課主幹（岩田 実君） 第一点の屋内消火せんの問題でございしますが、屋内消火せん、あるいは消火器ともこれはあくまでも初期消火のものでございます。これはあくまでも従業員が出火と同時に消火器を使用したしまして、初期のうちに消してしまいうのが屋内消火せん、消火器ということでございます。ただしおっしゃるように一分や二分で水が切れてしまつては効果が無いわけでございます。はつきりと政令によりまして全館の消火せんを利用いたしても、ちょっと資料を持ち合わせていませんので、おぼろげでございますが、約二十分間は利用できるだけの水量がなければ、確保しなければ認めないという基準がございまして、その基準には合致するように設置されております。

それから第二点の防火管理者の問題でございしますが、おっしゃるように防火管理者はあくまでも防火の総体の管理者でございまして、それぞれ消火班長、あるいは誘導班長、通報班長という係が設けられておりまして、その係を総体的に指導、監督する役目を持つものが防火管理者でございまして、それによりまして、おっしゃるとおりいままでわれわれ考えましても一応防火管理者は資格者を定めて選任されているわけでございますが、わずかに二日の講習でもって防火管理者の資格は付与されているわけでございます。まして、実際の防火管理者の責務と力というものが弱いんではな

いかとわれわれふだんから考えているわけでございまして、御指摘のように防火管理者の、すでに選任されております者の講習会をなるべく開催を多く催しまして、実際に経験しましたことを話しまして、実質的な防火管理ができるような防火管理者を養成いたしまして、確実な防火管理をされるように指導していきたい、このように考えております。

それから署の体制でございますが、おっしゃるとおりはしご車あるいはスノーケルと申ししても非常にその活動が制約されるわけでございまして、道路状況によってはこの出火いたしました高層建築物のそばまでいけないという問題もありますし、またそばまで参りましても電灯線、あるいは電話線等の架線の状況等によりましてははしごを伸ばせないわけでございます。しかしながら先だつてのいとう屋のような場合には前の道路も広いわけでございまして、ああいうところならばしご車も屈折はしご車も使用できるわけでございまして、私も最初申し上げましたように三カ年計画では五十年、五十一年というふうに計画をしておるわけでございますが、これは管理者のほうへ特別にお願いいたしましてできるなら来年度購入をさせていただきたい、こういうふうにお願ひしたいと、こういうふうに考えておる次第でございます。

〇一〇番（渡辺軍治郎君） 室内の消火せんについて、いまのお話ですと基準のものはつくつてあるということですが、扱い方の問題では、管理者の話が出ましたが、管理者が要するにホースですか、使う人をつくつていたかいなかったか知りませんけれども、抱いたとすればすぐ飛んで行つてやったと思うんですけれども、担当するものがない、非常に問題は具体的ですからね。扱う者を

きめておかなかったら、頭の管理者だけはいたつて機能しませんよ。そこらが問題があると思う。

もう一つは消火せんですが、タンクは四階の上にあつて四階から下まで、一階から火が出たということで、これは落差は要らないと思うんです。どのくらいのタンクを使って下へくるかわかりませんが、一階までくる落差はたかがしれていると思います。三芳水道の消火せんだと七気圧のあれがあるわけですから、そういう消火だつたらかなり役をしますが、四階の上にある貯水槽から下へ降りてくる落差というようなものではそうたいした水圧はないと思うんです。ですからそういうような点での研究といいますか、そういうのもやる必要があると思うんです。

それともう一つはいまの予算の問題ですが、スノーケルとかはしご車をやっぱり早く、いま言ったような事故が起こっているわけですから早くする必要があると思うんですよ。五十年の予算ということでなしにすでに四十九年から予算化する必要があると思うんですが、そういう点ではこれは広域市町村圏の問題ですが、市長さんはどういうふうに考えておりますか。

〇市長（本間 謹君） いま消防署長から話ございましたが、私も消防署のそういう要請があれば予算の編成にかかつて、来年度でも実行のできるようにいたしたいと思いますが、はしご車があったら必ずしもいいということも言えないですね。しかしながらやっぱりそういうものを備えつけていくことは重要だと思ひますから、要請があれば予算編成をこれからやるわけですから、やっぱり来年度からでも使えるようにいたしたい、こういうふうに考えております。

〇一〇番（渡辺軍治郎君） 市長さんの答弁でも来年度からやりたいというような話がありますから、これははしご車、スノーケルにしても専門的な知識が必要だと思えますからそういう点はよく検討されて、一日も早く予算化してもらいうように消防署のほうでも強く要求してもらいたいと思います。

これで私の防火体制に対する質問を終わりたいと思います。

その次に二六ページの青年館の工事費の問題ですが、青年館の工事費が八百三十四万五千円計上されておりますけれども、この内訳を見ますと県が百十五万五千円、寄付金が六百三十八万七千円になっているわけです。これは県の負担と市の負担というものが一般財源として寄付でほとんど認めているわけです。寄付で青年館をつくると、寄付にしたら逆に県のほうが六百三十八万七千円ぐらいもって市のほうが百十五万五千円ぐらいもてばいいんじゃないかというような気がするんですが、大体青年館の建設を大部分寄付金に求めるという税外負担のかなりきびしいものだと思いますよ。そういう点についてどのように考えておられるのかお伺いしたいと思います。

〇福祉事務所長（斉藤武男君） 青年館の寄付の關係につきましてお答え申し上げます。

この制度は県の事業といたしまして、昭和三十九年五カ年計画で県下に一千館を建設したいというような県知事の意向のもとで実施されてきておるわけでございますが、発足当時は大体県と市の補助金と地元の負担金で半々ぐらいでできておったわけでございます。その後建築材料等の關係がございまして、非常に地元の負担が強くなってきておるというのが実態でございます。

この県のほうの青年館の設置要綱によりますと、青少年の健全育成の場というような形で、地元の要望にこたえて建設したいという形で出てきておるわけでございます。でございますので、地元の方々が青少年の健全育成ばかりでなくて、いろいろと地元の集会有いは自治運営の中で場所がほしいというところから、地元の意見によって、これに対して県と市が助成をしておるという形でございます。

〇一〇番（渡辺軍治郎君） 地元の要請がある、こう言われますけれども、これは県の全県的な施設としてやられているわけです。だとすれば、県の事業に対する負担金の問題をいつも問題にしていますが、当然これは寄付に仰がなくても一般財源として市費で負担することになればやっぱり市財政を圧迫するわけです。県では青少年育成というような政策に基づいて全県的にやるとすれば、そういう立場からは大半は県がもって、それに対する負担金はむしろいまの数字の逆にならなければいけないと思います。いまの繰成を百八十三万七千円というのは一般財源の振りかえになっていきますが、こういう点で寄付が少し多過ぎるという、青年館をつくる場合にかなり地元から批判が出ているわけです。だからそういう問題はもう少し県の施策としてやるんらいまの数字が逆になるような方向でやられるのが当然だと思えますよ。これはやっぱり地元の要望があるといっても税外負担としては相当大きなものになるから、そういう点では私は納得できませんがここでどうこうといっても始まらないと思いますのでこら辺でとどめたいと思います。

それから二九ページの賃金の問題ですが、これは清掃労働者の

賃金ですが、ここに三百十三万八千円、それからし尿処理場の二十三万八千円。し尿処理場の二十三万八千円は二十四時間勤務について一人分の賃金だと思えますが、これは先ほどの質問で今後常置職員と同じような方向でしていくことで了解しますが、じん芥処理場の清掃従業員の賃金はこれは側溝清掃体制といいますが、側溝清掃車の割り増し賃金という説明であつたんですが、割り増し賃金なのか、それとも側溝清掃車の人員を今後どうかしていくのかどうか、その辺の点をお願いしたいと思います。

○衛生課長（館石勘治君） これは側溝清掃車を当初入れますときに人を一緒に借りて側溝を清掃するという最初の計画があつたわけですが、ところがリースでできるということで、リースになりますと人員はこちらのほうで出さなければいけない、こういうことで臨時職員をこれについて三名使つたんであります。したがいまして七月から三名使つておりますのでその賃金と、それからもう一つは臨時職員が現在正木処理場関係で十名おりますので、それに対する割り増し賃金と両方が計算されておる数字になつてゐるわけでございます。以上でございます。

○一〇番（渡辺軍治郎君） そうしますと、三人というのは側溝清掃車をやつていく上で人が足りない分を、これは将来増員するといふことが考えられますが、そういう方向でいくのかどうかお伺いしたいと思います。

○衛生課長（館石勘治君） 臨時職員が三名で正規の職員が三名、六名で現在やっておりますが、将来これについて増員するかどうかといふことは、いましばらく作業状況等をくんでみた上で検討したいと、こう思っております。

○一〇番（渡辺軍治郎君） 三五ページの一〇款二目ですが、県立養護学校誘致期成会負担金が五万ありますが、これは県立養護学校に対する寄付になるのか、そういう点をひとつ。

○学校教育課長（小宮義夫君） ただいまの御質問でございますがこれは県が特殊教育振興のために四十七年度から第四次五カ年計画を立てまして、県立養護学校を八校設立する案を示したわけでございますが、その内容につきましては精神薄弱の子供たちを収容する養護学校、肢体不自由児の子供たちを収容する養護学校、病弱の養護学校、この三種類の養護学校八校を設立するという案をつくつたわけでございます。

このうちの一枚を県南地区に計画しているということでございます。県南といいますが安房だけではございませんで、長生、夷隅、安房、君津、こういう地域に一枚を設立するというところでございます。そういう案が出たわけでございますが、早くから、案が出る前から安房地方には特殊教育振興協議会、それからもう一つ親の方々がつくつております安房地方の心身傷害児手をつなぐ親の会、こういう団体がございしますが、これらが早くから養護学校が県南地区にございせんので、一枚をどうしても県立として造つてもらいたいという要求を県のほうにたびたび出しておつたわけでございます。このときにこういう案が出たものでございますので、安房地方教育委員会連絡協議会が中心になりまして県立養護学校誘致期成会をつくつたわけでございますが、そして強力に県南に一枚を安房に誘致しようといふことで運動を展開しようといふことになったのが期成会でございまして期成会を運営していく基金に五万円を館山市分として分担金を出して、そして安房

全部で二十一万の予算でございますが、これで運動を展開しようという計画でございます。したがって、ただいま御質問のように分担金ということではございませんで、誘致する一つの分担金、運動の分担金、こういうふうに御解釈いただければ幸いです。以上。

○一〇番（渡辺軍治郎君） もう一つお伺いしたいんですが、三六ページ二項小学校費の学校管理費の中で二百二十六万五千円、これは給与費の減額が出ていますが、この内容について質問したいと思ひます。

○人事課長（小沢正治君） この関係は当初予算で計画いたしましたときは、小学校の用務員に高齢者があつたわけでございますが、はつきりしませんでしたのでそのまま計上したわけですが、六十五歳以上の高齢者が三名四月時点で退職いたしました関係で計画と相違を生じてきたというわけでございます。

○一〇番（渡辺軍治郎君） 当初用務員を三人必要だということて予算化したということだと、当然この三人は必要性があつて予算化したと思うんですが、途中で一人ですか、やめたのは、そのための人件費がこういう減額になって出てきたと理解していいわけですか。

○人事課長（小沢正治君） 必要だということではなくて、教育委員会のほうでは一応小中学校の無人化やら、小さい学校の用務員が事務員を配置した関係で必要性が薄れているという関係がございまして、縮小の計画はあつたわけでございますが、長く勤続された方の退職関係がはつきり見込めなかつたために、一応その人たちがいつの時点で退職されるというようなことがはつきりしな

かつたために、その人の分として一応予算化したわけでございますが、四月になって話し合いがついたために静岡に帰られたり、退められたりという形が生じましたために、その関係で計画等よりも人件費が減つてきたというような関係が生じてきているわけです。

○一〇番（渡辺軍治郎君） そうしますと三人の用務員というのはこれから先は必要であるわけですか。結局は来年度の予算編成とからむわけですが、当初予算で三人必要だということで組んだわけですから、今後当然この三人は必要だということになりますか。

○教育委員会庶務課長（汐崎政光君） お答え申し上げます。三年前から各学校に学校事務職員といったものを配置しているわけです。そうした中におきまして、最近におきまして各学校の用務員の用務、そういったものをいろいろ検討し、学校と協議しました段階で小規模の学校においては用務員は必ずしも必要はないんじゃないか、こういったような意見が出てまいりまして、それに基づきまして今年の初めに退職されました小学校においては二名でございますが、それらのやめた用務員の代替を新たに追加しないので現在に至っております。その給与費がここで減額いたしましたものでございます。

○一〇番（渡辺軍治郎君） これから先、来年度減っていくわけですが、いままで三人でやつたところを二人で済むわけですか。

○教育委員会庶務課長（汐崎政光君） その方向で大体進めております。

○一八番（安西益男君） 二点について要点だけお伺いしたいんですが、二〇ページの一九節負担金の件ですが、特別養護老人ホー

ムの建設についての点ですが、敷地が医療センター付近というふう
うに聞いております。これは決定しているかどうかということ。
決定してましたならばいつごろから着手するのかということ
をお伺いしたいわけです。

もう一点は三三ページ一五節工事請負費ということで、工事請
負の場所、何カ所ぐらいか、どの辺を予定されていますか。その
辺をお聞かせいただきたいと思います。

○企画課長（伊藤幸太郎君） 用地の問題につきましては、目下交
渉中でございます。

建物、その他の建築経費といたしましては、四十九年度から用
地が取得された場合には考えていきたいというような計画のもの
でございます。

○土木課長（飯田治男君） お答えいたします。六カ所ございま
す。というよりも六路線の計画でございます。

実際に路肩等の決壊は二十路線程度でございますが、このほかは
私ども直営の工夫で現在修理中でございます。

○一八番（安西益男君） 実はその敷地の件につきましては、医師
会ですか、大休あそこらしいと聞いておりますが、まだ確定とい
うわけじゃなく、そういった方面を交渉しているということでは
か。

○企画課長（伊藤幸太郎君） ただいま申し上げましたように、目
下まだ決定いたしませんで、交渉中でございます。

○一八番（安西益男君） それから工事費の件ですが、先日の集中
豪雨によってということをお願いしたわけですが、あそこのまご橋の
きわの護岸がくずれているわけでございます。昨年度は半分まで

やって、あと半分残っているところがくずれて、それで道路が、
コンクリートでやっておりますけれども、そこが非常に危険だと
いうことがあるんですけれども、この辺はどういうふうに考えて
いますか。

○土木課長（飯田治男君） あの個所につきましては管理が千葉県
になってしまして、おそらく県のほうで災害等の申請をしている
んじゃないかと思えますけれども、その点ちょっとはつきりしな
いんですが、舗装の下にえぐれているということで、私のほうで
も至急なんとか方法を講じなければならぬということで指示し
てございますが、いまのところちょっとそちらのほうへ手が回ら
ないということでございます。

○一八番（安西益男君） よろしくその件等の折衝を至急にやって
いただいて、たいへん不安を感じているもんですから、以上です。
○二〇番（君塚喜三君） ただ一点のみにについてお尋ねをいたしま
す。

四三ページの債務負担行為に関する調書補正についてでありま
すが、「その二」の過年度議決済額について、これは後日の審議
に関連をもつと思われまのでこの際確認の意味でお尋ねするわ
けですが、四十六年三月に議決をみた道路改良舗装工事委託費の
限度額一億七千四百七十万円について、その支払いに関して四十
六年度以降の支払い予定額といたしまして、四十七年度が三千五
百十万、四十八、四十九、五十、五十一年度につきましてはそれ
ぞれ三千四百九十万と設定されておったわけでございます。とこ
ろが四十七年度の決算書の八二ページに見るように、四十七年度
の支払い済額が二千六百九十四万八千円となったのは、これは契

約額が予定額を下回ったことによって今回の補正となったものと思えますが、このように理解をしてよいかどうか、お尋ねいたします。

○財政課長（長谷川広治君） 御発言の御理解のようで大体けつこうでございますが、一億七千四百七十万円の限度額の中で実行額が一億六千六百五十四万八千円でございます。四十八年度予算の執行はただいま御提案申し上げたように当初の予定に年割り額を変更いたして三千四百九十万ずつを四カ年間にわたってお支払いをいたしたいというようなことでございます。

○九番（辻田 実君） 時間もあれですから少し簡単にしたいと思えますけれども。

二五ページの老人クラブの補助金ですけれども、これは一クラブ二万五千円が三万六千円ということでもって国、県の支出金がかなり出たということでございますけれども、老人クラブの補助金の多くなるのはけつこうなんですけれども、三万六千円という額が補助対象ということでもって指示されたものかどうか、その内容について一応そういうことでもって多くなったという内容でございますけれども、その内容についてひとつお伺いしたいと思うわけでございます。

それから二番目に、二六ページ負担金のところでもって教材費補助金が実人員の減少により百八十七万七千円減ったということで、実人員は何人ぐらいなのか、その点についてお伺いしたいと思えます。

二九ページ賃金のところでございますけれども、リースの割り増しでございますけれども、清掃作業員のあれが三百十三万八千

円計上されているわけでございます。当初予算を組むとき、このリースを入れるときにいろいろ論議されて非常に人件費の削減とかいろんなことを言っておりました。当時七人分五百七十八万九千円あれば十分だと、むしろ少ない傾向だということを言っておったわけでございます。あのころ非常に高い機械だけれどもその点は十分だということを聞いておったんですけれども、現実的には、当時これより少なくなってもこれより多くなることはないということを論議の中でもって言っておられた、にもかかわらずこへくると七人分に対して、五百七十八万九千円に対して約三人分が四人分ぐらいの絶対的増というものがふえてきちゃった、これについては当初予算の説明について責任がなさすぎる。リースが非常に性能がいいということでございますが、見てたんではわかりませんけれども、性能状況はどうなのか、わきで見ていた人の話だと時間がかかってどうこうということがあつた。人が予想以上にかかっている様子が見られるということでございますけれども、当初はいれるいれないでもって論議して、そのときの予算として十分だというのが、むしろこのように大幅に出てきた、買っちゃったものはしょうがないということで、そういうものはあまりにもひどすぎる、この点についてはどういう経過なのか。あの清掃機がどうしてこのような大幅な狂い、五百七十万の当初予算で十分だというものが三百十万を追加しなければならぬという、このリースそのものは手でやる人をなくして賃金を減らすんだということが根本の目的になって、こういうことになっては、かかったものはしょうがないにしてもその間の経過というものを十分に報告してからやるべきが筋じゃないかということで、責

任をもって説明していただきたい。

次に三二ページの自然休養村の神戸の設計委託料でございますけれども、当初としては十五ヘクタールの区画整理ということでもってこれに対する委託料ということでございますけれども、この前の説明ですとこれが設計委託料ということじゃ補助金が出ないので監督補助員ということでもってやればということで、あそこ地域の人を何人か指定しちゃったというんですけれども、当初予算組むときの、補助金であっても委託料ということで当初予算に組んだのが、委託料が具合が悪いからということで、何か名目、趣旨がわからない。現場監督補助員賃金ということでもって何人かを指定という形はどういう為に起こるかということです。通告質問で一八番議員も質問しましたように補助金のそういうこと、特に農業、漁業のそういうことについて何か補助金中心にしておっても、補助金の当初予算の編成の仕方、そしてその後の編成の形の交付のものが、補助金だからというものの飛躍しすぎていろいろな感じがするわけです。もらえるものはもったほうがいいということかも知れませんが、国、県の金であってもこれは国民の税金の中から出ているわけでございます。我田引水的に来るものは来る、そこらの人に分けてやれば何かの足しになるだろうという感じがするわけです。四十二万というものの、何かそういう内容によっては、説明ではたよりない心配される面があったわけでございます。

三二ページの工事請負費ですけれども、それに関連しまして坂田、栄ノ浦、川名、波左間の漁港の拡張工事について百三十二万の減額です。当初予算は三百四十万ということでございまするか

らこれに対して百三十二万の減額と、何か計算違いにしても額が大き過ぎる、なんでこのような工事が当初予算に組まれて削られなければならないのか。県の補助金の関係でこうなりましたという説明ですが、今度新しく香の防波堤等の工事にかえられるというものの、それを差し引いてもかなり当初予算に組んだものか予定どおり進捗されない。やはり県の交渉というものはこういうものか。ある面からいいますとかなりずさんな、民間なり普通の企業ベースでまいますとこんなずさんなことは考えられないんですけれども、今回の場合にはかなりそういう面が多いので説明を聞かしていただきたいと思います。

なお、三四ページの国の支出金として、境川並びに西岬の河川工事のものとして補助金が百万円予定されておったのが出なくて一般会計に切りかわってしまったわけでございますけれども、当初この中をもって地方債四百万、そして一般財源が七十四万二千円、こういうことであったわけでございますけれども、これは地方債の関係等というようなことが言われておりましたけれども、これについてもこういう百万からの補助金の減ということについても少し、この前聞きましたけれども、前二件、農林漁業等合わせてお伺いしたいと思います。

以上について補充説明をよろしくお願いしたいと思います。

会議時間の延長

議長（吉田勇治郎君） 議事運営上おはかりいたします。
本日の会議は議事の都合により、この際あらかじめこれを延長したいと思いますが、これに御異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（吉田勇治郎君） 御異議なしと認めます。よって本日の会議時間は延長することに決定いたしました。

御答弁願います。

○福祉事務所長（斉藤武男君） お答え申し上げます。老人クラブの助成の関係でございますが、これは国の基準どおりに実施しております。本年三万六千円のアップになったわけでございますがそれぞれ国、県、市、三分の一ずつの助成で九十九クラブの関係をお願いしているわけでございます。

それから教材費の実人員の関係でございますけれども、当初三百七十三名を見込んだわけでございます。幼稚園の就園児等を見込んでその残りということで出したわけでございますが、実際的人员は二百六十二名、四歳児が二百八十二名のところが百八十一名、五歳児の関係が九十一名が八十一名というのが実際の数でございました。そういうわけで減額補正をお願いしたわけでございます。

○衛生課長（館石勘治君） 賃金の問題でございますけれども、先ほど御説明申し上げましたとおり当初は借上げでやろうじゃないかという計画で進めたんでございますけれども、リースにしたほうが効率的、安くつくんじゃないかという結論に達しましたので、このようにしたわけでございます。したがって賃金で三名を補給したわけでございます。

なお、機械があまり効果的じゃないという御懸念でございますが、これは側溝をするのに、当初お話ししましたとおり側溝にふたのついてある側溝については非常に効力を発揮するんでござい

ますが、ふたのないものについては現在ふたをビニールでかぶせてやっておるといふようなこと等もございまして、その威力が足りないところでは効果が削減されてしまっているということも言えるわけでございます。

なお、側溝そのものにつきましても、側溝そのものの中に古いので崩れているようなところ等もございまして、それを補修と申しますか、そういうものをいろいろ直しながら現在やっているようなわけでございます。

したがって、ずっと回ってしまいますれば、たまっているどろ等が非常に少なくなると思いますが、そうした段階においては相当の威力を発揮できるんじゃないかと、こう思っております。何十年も掃除しないどろ等を現在排除しながらやっておりますので、非常に能率が削減される側溝等もある状態でございます。以上でございます。

○農産課長（石井 謀君） 三ページの自然休養村の関係につきましてお答え申し上げます。

これは神戸地区の二地域の区画整理の関係で当初予算で三千八百三十一万円を委託料としてお願いしたわけでございますが、この算出の基礎は区画整理と確定測量から換地等含めまして、諸経費ももちろんこの中に含まれているわけでございますが、これを県の農業開発公社に委託してお願いする計画で進めているわけでございます。

その中で監督員というのは、館山市が事業主体でございますので当然市が監督するわけでございますが、諸経費の中で補助員として千九百四十名程度の監督員を補助することが必要であらうとい

う県からの指導がございましたので、今回補正をお願いする次第でございます。

○水産課長（谷貝茂生君） 三二ページの漁港の予算につきまして御説明申し上げます。

九十三万の減でございますが、漁港ごとに申し上げますと、坂田漁港につきましては入札の結果安くなったということでございます。

栄の浦漁港につきましては、護岸のみで見送るということで減額しました。

川名漁港につきましては工法の変更によりまして安く上がったということでございます。

波左間漁港につきましては、県の補助の關係もございまして、荷さばき所の上張りは中止して、護岸だけ実施ということで、なお緊急を要するものとして香漁港と伊戸漁港の排水路の一部をやりましたので、差し引きこれだけの減額でございます。

○土木課長（飯田治男君） 三四ページの補正額の財源内訳でございますが、当初予算には歳入面で県の市町村道改築補助金として二百万、都市計画事業費といたしまして六十万歳入が得られたわけでございます。

そして本年度の工事といたしまして県のほうに長須賀・南町線の側溝工事から境川の河川工事、真倉の東橋のかけかえ工事、この三つを県費補助の対象といたしまして私のほうで要望しておりましたが、長須賀・南町線に四百万円という内示がございましたので、内訳をこのように変更したわけでございます。

それから都市計画事業につきましては、昨年まで継続でやって

おりましたが、本年からは補修の形になりますので、それについては県費補助が、助成ができないということでございます。

○九番（辻田 実君） 時間もだいぶ経過しておりますので二点のみで再質問いたしたいと思います。

リースの問題なんですけれども、答弁でいきますとすぐ買取りになるかということで論議があったということですけれども、それも確かにあったんですけれども、あの機械そのものがどうかという論議があったわけですよ。簡単に七人がやってみたら三、四人ふえたからということでもって、五百万の当初予算に対してこれだけふえるということは補正予算組んでやっているということなんです。これは率直に言って市の計算違いがあったんじゃないか。あのころだって古いどころがあつて機械だつてそううまくいくもんじゃない、手でやったほうが早い場合もあるんだというような論議をしているんですよ。確かにそういう点については間違つたら間違つたで、組み違いなのははっきりしてもらいたい。当初からこの程度かかるのはわかつていたんですけれども人を少なくしたほうが通ると思つて組んだのかどうか、そこまで疑いたくなる。わずかな半年の期間ですから、その期間にこれだけの差が出る。一割、二割の差でしたら問題はないんですがそういう形の予算の提案の仕方、承認の仕方については、これだけの狂いが出てきた場合にはもっと責任をもつてやっていたべきたい。私たち真剣に討議しておつたて全くあれじゃありませんか。実際に便利だったのか、実際に出てきたのならこういうふうに出たというもう少し確たる答弁をしてもらいたい。三百万ほつちといたしますが、たいへんな額なんです。リース、清掃機その

ものが手でやってはたいへんなんだ、とても取れない、経費がかかって云々ということがあってどうしたらいいかと、一銭でも安くしたほうがいいということでリースにかえた、人も削減されるからということでもって七人で十分かなう、十分ですと、減るぐらいでもってだいたいようぶですというのが減るところじゃない、これだけ出てくる、この点についてい言ったように当初からのくらのものがあつただけけれども、予算の関係でかくして、あとでもって追加してやろうというものだったのか。こういう必要性が出てきたなら、あれだけ断言していたものがこれだけの増になるわけですから、その面についての確固たる答弁をもらいたい、こう思うわけでございます。

それから境川のあれですけれども、これは補助金のワクの関係でこうなったというところで解釈しているわけなんです、これは超過負担という形になるわけですか。補助金が規定どおりもらえなかったということで境川の工事そのもの百二十メートルをやるわけですよ。これが補助金を打ち切られて一般財源百万の組みかえになつてゐるということは、補助金が当然予算のワクとか、そういうものがあれば当然境川の工事を予定どおり着工した場合に補助金はもらえるというものが、補助金がもらえないので長須賀線の道路ですか、そっちへ予算がいったために境川の工事そのものはやるけれども、しかしそれに対しては自主財源でしなければならぬという、こういう超過負担をするという形で解釈していいのかどうか、その点について。

〇衛生課長（館石勘治君） 当初の予算でございますけれども、これは正木の処理場を含めた人員で考えたわけでございますが、そ

れで清掃車をもってまいりました段階で正木処理場のほうから大規模度のもので人員を削減してできるかどうかということで非常に討論されたんですけれども、どうもじん芥処理場のほうでもその人を削減されてしまつては私のほうの仕事に支障をきたすという、こういうようなお話でございましたけれども、それでは臨時職員を採用しまして側溝清掃車を運営していこう、こういうことでございます。

〇土木課長（飯田治男君） 超過負担ということじゃなくて、これは市のほうで各年度計画している事業のうちから県のほうでその事業に対して助成をしてくれるという形でございますので、うちのほうで排水整備というものはあまりいまままで申請したことがなかったわけですけれども、これを三番目にして出したところ、県道だからそれに対して助成しようということ、最高額が七百万という額を県のほうで助成してくれたわけでございます。別に四十八年度で市で実施する計画のものについて、県のほうでそのうちから一町村一カ所ということで県費の助成をもらえることになつております。

〇一三番（五十嵐 昇君） ただいま九番議員のほうからじん芥処理につきましての人員費についての御質問があつたわけでございます。

それにつきまして四款衛生費二項の清掃費二目じん芥処理費でございますけれども、人件費におきまして三百十三万八千円、需用費について百三十五万九千円、それから役務費として二千万、こういう多額の費用が補正として計上されておるわけでございます。じん芥処理の問題につきましてはごみ戦争と称せられるよう

に非常に各行政府において非常に大きな問題として、頭の痛い問題であろうかと存ずるものであります。市長さんは正木の焼却施設ももう処理能力をオーバーしている現状であるから施設を増設して処理能力の増進をはかるということを話しておられるのでありますけれども、ともすると市民のほうがそれについていかなんじやないか。市民はともすると消費美徳というより新しい考えとでも申しましょうか、そういう面でごみをむぞう作にごみ箱に捨てて、そしてそれが積もり積もってばく大な量になっていくんだ、したがってこういうごみの選搬につきましても、あるいは人件費の問題にいたしましても、あるいは燃料費等におきましても莫大な市税をそこにくっていく、こういうことになるうかと存ずるものでございます。

したがって、この件につきまして館山市のごみの収集量につきましてこの数年間の比率はどうなっているのか、これが第一点。

二番目といたしましては、資源愛護の思想の普及徹底をここではからなければ、年々再々莫大な費用を投じなければならぬんじゃないか。したがってこの消費美徳から儉約美徳にかえていく何か施策はなからうか。またそのかえていく考え方といったしましては、一定限度を越えたごみに対しては無料化から有料化にもっていく、これも日ごろ本間市長の施策として無料化が実施されて非常に市民は喜んでおるのでございますけれども、この無料化はともするとごみの増大に拍車をかけていく現状ではなからうかと存ずるのでございます。したがって自家処理というふうなことの普及と合わせて何とかごみの減量をはかるという

意味で窮余の一策といたしまして有料化のことも考えてよからうじやなからうか、あるいはそれを轡かせてよからうじやなからうか、こう存ずるわけでございますけれども、これに対する市当局のお考えをお知らせいたしたいと存ずるのでございます。

以上三点。

○衛生課長（館石勘治君）　ごみの増加率でございますけれども、五十嵐議員さんのほうから過去五年間の数量というお話でございましたが、いま私四十五年からの数字はここに持っておりますのでそれでお知らせさせていただきますと思います。四十五年度は一万九十二トン、四十六年度は一万二千四百七十八トン、四十七年度は一万四千三百六十一トンでございます。

無料化についてでございますけれども、各市町村は無料化の方向に移行するというような情勢であつたわけでございます。無料化になったから多くなったというふうには、現在館山市ではないか、ないとは考えます。有料化にしたら、少なくともなるだろうということと、その有料の金額によっても多少違いは生じやしないかと思えます。そういうことで無料化ということはそう大してごみの収集量には響かないんじゃないかと考えております。

○助役（畠山 伝君）　二点目の資源の儉約ということについてお答え申し上げます。

これにつきましては、おっしゃるように市長も物を大切にすることを提唱しようというふうなことで、先般の物価問題協議会でこれを取り上げていただきました、これを市民にあれしようというところで進めておるわけでございます。

いままでやはりいろいろ包装紙、いろいろのものが過剰でごみ

が多くなったことはよく言われることでございますので、ここは物を大切にする運動を大いに推進してまいりまして、そうしたごみも出ないようになるんじゃないかと思いますが、そういうことで現在PRするための運動を進めてきているわけでございます。そこで先般十二月一日の広報でございますが、物を大切にする運動につきまして広報でお配りをいたしました、市長もたいへん興味をもっておりますので推進してまいりたい、そのように考えっております。

〇一三番（五十嵐 昇君） ただいまの御説明でここ数年間のごみの量の増大、あるいは資源愛護の意味の当局のお考え、あるいは無料化ということのお話でございますけれども、第一点につきましてはやはり莫大なごみが年々再々異常な増大をしておる、したがって、このじん芥処理費も当然上がっていくであろうということが考えられるわけであります。

また、資源愛護の意味におきましては、市当局におきましてはいろいろな機会を通して精神の普及に徹底していく、主婦の覚せいをうながすというような意味でぜひとも物を大事にするという方向で、あらゆる手段、方策を講ぜられまして進んでいくということ。

第三点目の無料化が、ほかの市町村においても無料化の方向で進んでいく、これはけっこうなことでございます。無料化はわれわれ市民といたしましてはもう手をあげて賛成するところでございます。市長さんもそういう意味で無料化に踏み切られたと思うのでございますけれども、ともすると人間というのはかつてなもので無料化だから何でもかんでもごみ箱へかっこんじまえ、持っ

ていってもらえばいろいろの手数が省けるんだというような安易な考えをわれわれ持ちたがるものでございます。したがって無料化は理想でございます、われわれも手をあげて賛成するものでございますけれども、その反面に無料だからという安易な考え、これはともするとわれわれ持ちがちでございますので、これにつきましてもひとつ十二分に留意されまして、何とかごみのじん芥処理に対する費用の節減をはかっていただきたい。

〇議長（吉田勇治郎君） 他に御質疑ございませぬか。御質疑なしと認めます。質疑を終ります。

委員会付託の省略

〇議長（吉田勇治郎君） おはかりいたします。本案を委員会付託を省略いたしますことに御異議ございませぬか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

〇議長（吉田勇治郎君） 御異議なしと認めます。よって委員会付託は省略いたします。

討 論

〇議長（吉田勇治郎君） 討論に入ります。

〇一〇番（渡辺軍治郎君） この補正予算は全体で一億二千六百五十四万四千円でございますが、そのうち八千五百三十七万九千円が人件費でございます。私は議案審議の中で一般職員の給与の引き上げについては賛成してまいりました。しかし常勤特別職の報

剛引き上げについては反対してきました。

さらに、自治センターの負担金も計上されておりありますが、自治センターの協議事項に対して説明では納得できない、要するに民主的な組織として民主的な運営も保証されない、そういうことであると考えて反対してきました。

それから青年館の寄付についても、大体県の施策としてやられているのに大部分が寄付金に求められているわけでございます。こういう税外負担をしいるような内容については賛成することはできません。

したがって私は一般職員の給与について賛成しますが、あとで述べましたそういうものについては反対でありますので、採決ということになりましたと矛盾しますので退場したいと思えます。

○議長（吉田勇治郎君） 他に討論ございませんか。― 討論なしと認めます。よって討論は終わりました。

採 決

○議長（吉田勇治郎君） おはかりいたします。

本案を原案どおり可決するに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（吉田勇治郎君） 御異議なしと認めます。よって本案は原案どおり可決されました。

議 案 の 上 程

○議長（吉田勇治郎君） 日程第九、議案第七十六号乃至議案第八十号特別会計補正予算を一括して議題といたします。

議案第七十六号 昭和四十八年度館山市国民健康保険特別会計補正予算（第一号）

議案第七十七号 昭和四十八年度館山市水道事業特別会計補正予算（第二号）

議案第七十八号 昭和四十八年度館山市と畜場特別会計補正予算（第一号）

議案第七十九号 昭和四十八年度館山市休養施設特別会計補正予算（第一号）

議案第八十号 昭和四十八年度館山市ユースホステル特別会計補正予算（第一号）

○議長（吉田勇治郎君） 御質疑願います。御質疑ございませんか。― 御質疑なしと認めます。

委員会付託の省略

○議長（吉田勇治郎君） おはかりいたします。本案を委員会付託並びに討論を省略し、直ちに採決することに御異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（吉田勇治郎君） 御異議なしと認めます。

採 決

○議長（吉田勇治郎君） おはかりいたします。

本案を原案どおり可決するに御異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（吉田勇治郎君） 御異議なしと認めます。よって本案は原

案どおり可決されました。

散

会 午後六時十六分散会

○議長（吉田勇治郎君） 本日の会議はこれにて散会いたします。
次会は明十二月十一日午前十時開会といたします。その議事は昭和四十七年度一般会計及び特別会計決算の審議といたします。

○ 本日の会議に付した事件

一、議案第六十八号乃至議案第八十号

